「次世代郊外まちづくり」
モデル地区調査報告

2018年３月

横浜市／東京急行電鉄株式会社

目　次

調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
１．たまプラーザに対する満足状況とニーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　１）たまプラーザに対する全体満足度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　２）生活環境別満足度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
　３）定住意向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
２．地域とのつながり・交流・街づくりに関する実態とニーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　１）知人や友人の存在 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
　２）地域のつながりニーズと現状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
　３）地域とのつながりに対する考え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
　４）地域での交流機会ニーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
　５）参加している活動・今後参加したい活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
　６）街づくりの担い手となる意向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
　７）「次世代郊外まちづくり」の認知・参加経験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
３．働き方の実態とニーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
　１）就業状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
　２）定年退職の予定・定年退職後の過ごし方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
　３）働き続けたい意向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
４．情報・移動・環境に関する実態とニーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
　１）利用しているコミュニケーションツール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
　２）外出頻度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
　３）移動手段 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
　３）外出時の不安・不便さ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
　４）移動（モビリティ）に対するニーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
　５）環境・エネルギーに対する意識 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
５．住まいに関する実態とニーズ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
　１）住居形態・築年数・居住年数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
　２）住まいの選択理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
　３）住まいに対する満足度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
　４）住まいに対する意識 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
６．家族・世帯の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
　１）未既婚・ライフステージ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
　２）暮らし向き意識 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

調査概要

調査概要

１．調査目的　　横浜市と東京急行電鉄株式会社が2012年度から推進してきた「『次世代郊外まちづくり』の推進に関する協定」を2017年４月１日に更新したことを受け、この５年間での街や暮らし、コミュニティの変化状況を把握することを目的に実施。

２．調査対象　　横浜市青葉区美しが丘１～３丁目に居住する全世帯（6310世帯）
＊世帯数は2016年３月31日現在　（2012年３月31日現在6495世帯）
各世帯のうち、18歳以上の世帯人員１名が回答
保護者と同居している学生は除く（保護者が回答）

３．調査方法　　自記式アンケート調査　　訪問留置郵送回収、一部訪問回収

４．調査期間　　2017年10月14日～10月18日
商店街に対し2017年11月17日～20日に同様の調査を実施

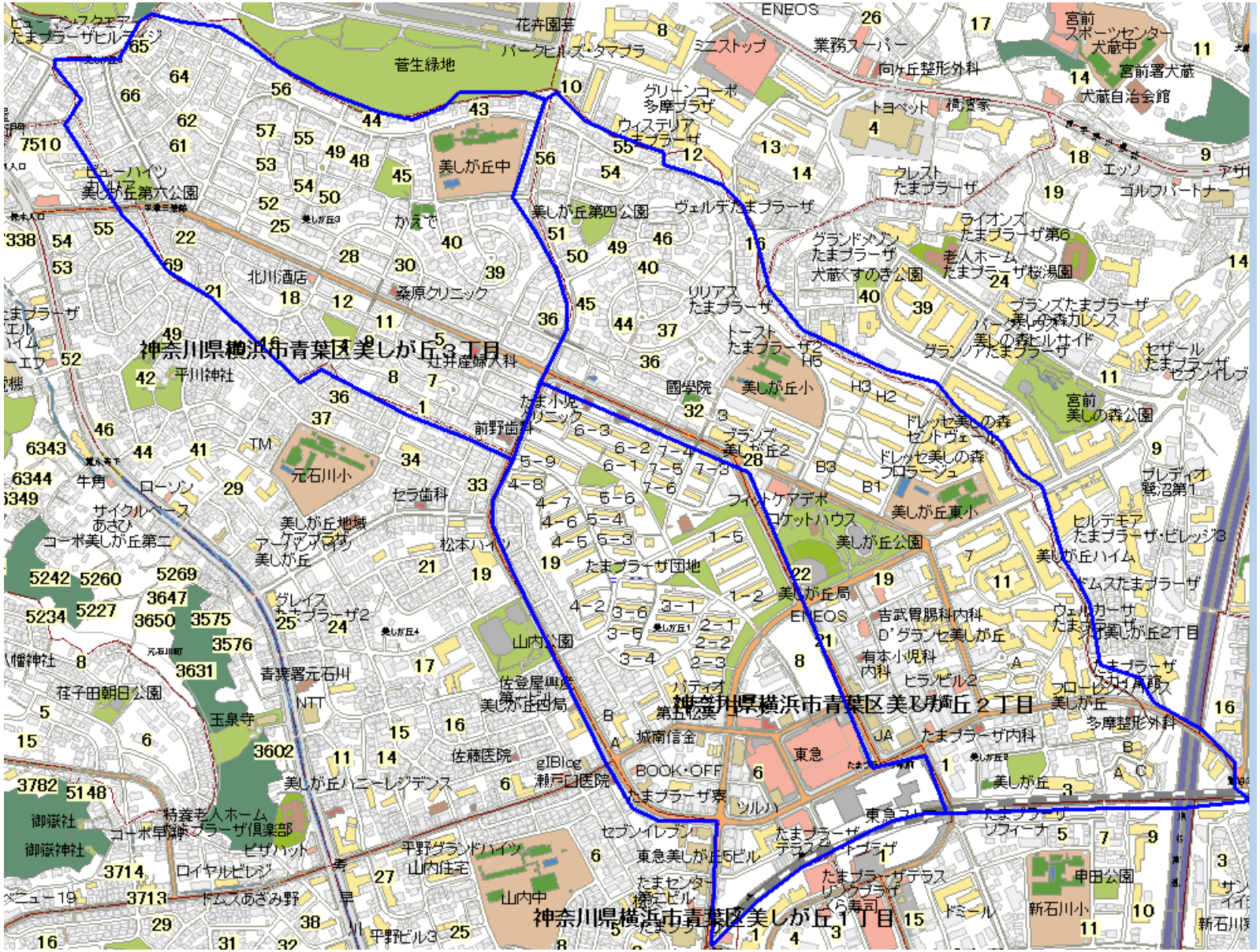
５．回収状況　　◆住民調査
（2017年）訪問：6219世帯　依頼・ポスティング：6063世帯
回収：1255世帯　（依頼・ポスティング数に対し20.7%）

（2012年）訪問：6475世帯　依頼：4752世帯
回収：1358世帯　（依頼数に対し28.6%）

◆商店街
（2017年）訪問：19８件　　依頼・ポスティング：178件
回収：31件　　（依頼数に対し17.4%）

調査概要

■調査対象範囲（横浜市青葉区美しが丘１～３丁目）



TR・AMSにて作成

１．たまプラーザに対する満足状況とニーズ

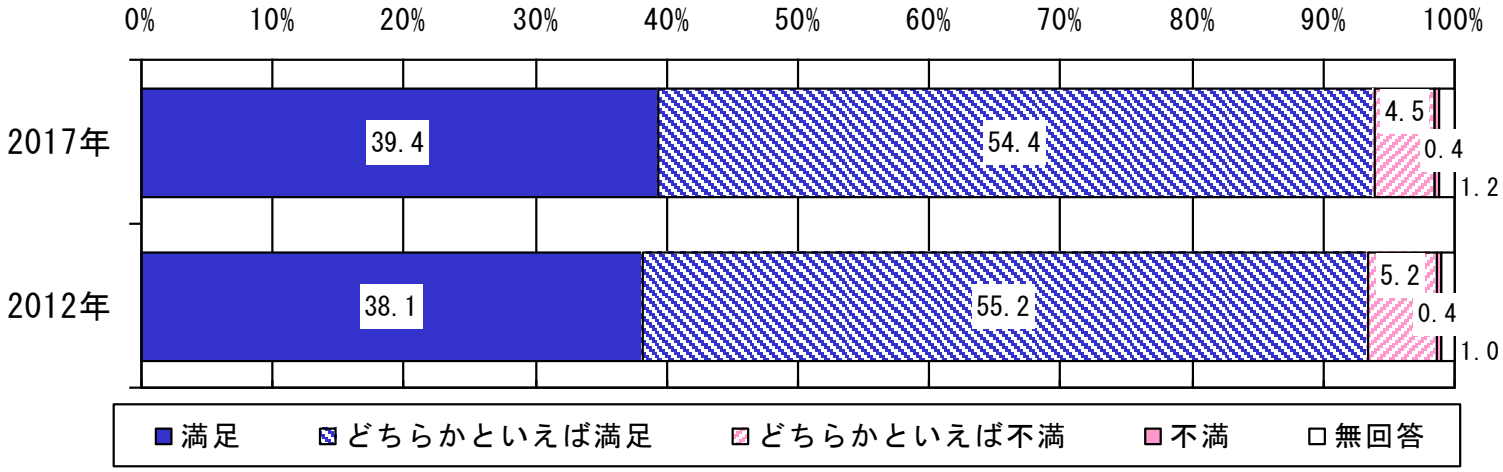
・街に対する満足度・定住意向は、前回同様に高い。

・ 前回に比べて「雰囲気（マナー・コミュニティ）」「安全（防犯対策・防災対策）」「教育関連施設」の満足度が高まる。

１）たまプラーザに対する全体満足度

・たまプラーザの街に対する全体的な満足度は、前回同様に「満足」が約４割、「どちらかといえば満足」を含め９割以上にのぼる。
　不満との回答は非常に少なく、たまプラーザの街に対する満足度が高い。

図表１－１－１　たまプラーザに対する満足度：全体満足度（Ｑ２）



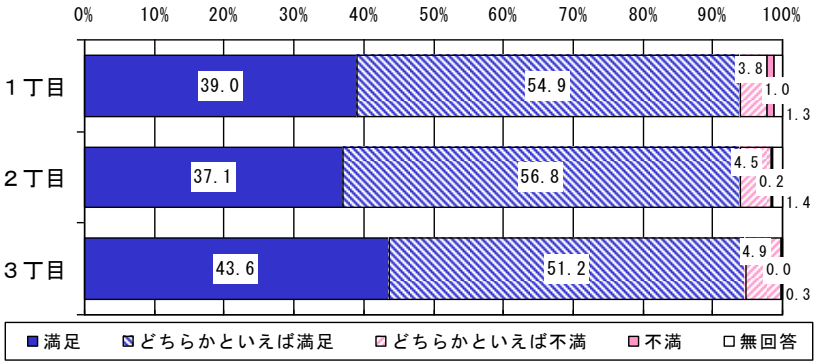
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

たまプラーザに対する全体満足度（エリア別）

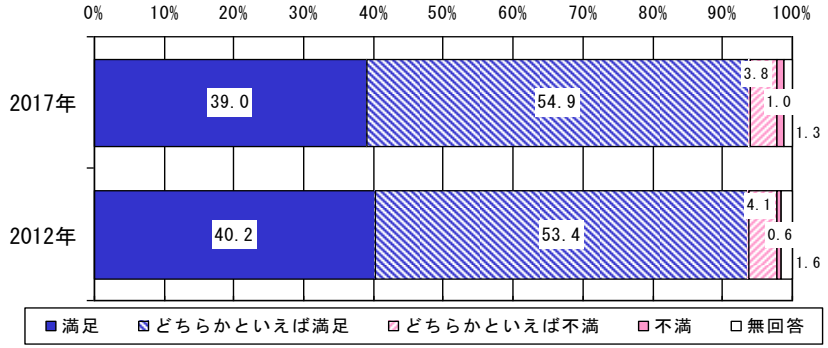
・たまプラーザの街に対する満足度は、３丁目の割合が高い。
・前回（2012年）と比べて、２丁目の満足度がやや向上。

図表１－１－２　たまプラーザに対する満足度（エリア別）

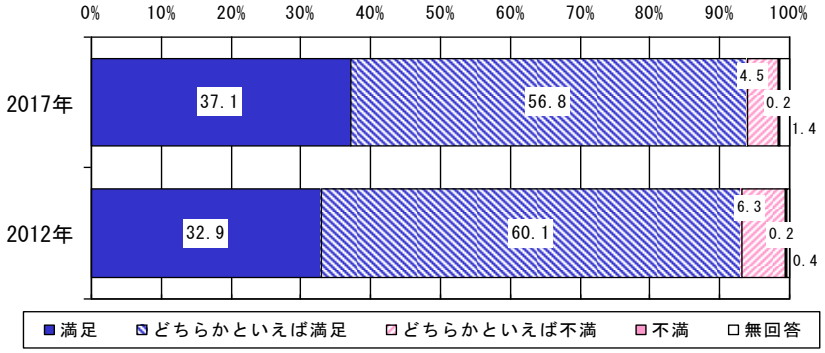
（2017年）



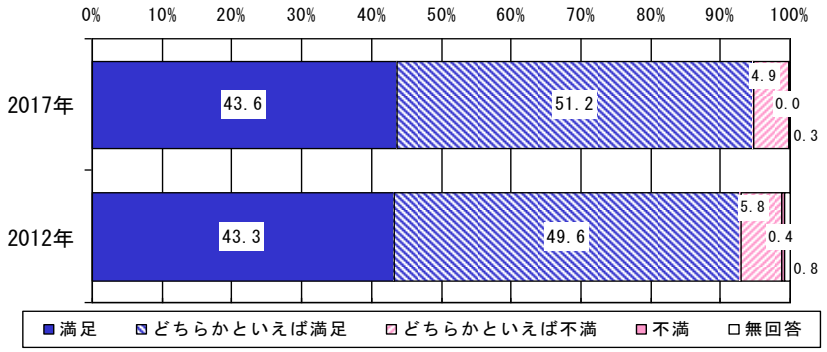
（１丁目）



（2丁目）



（３丁目）

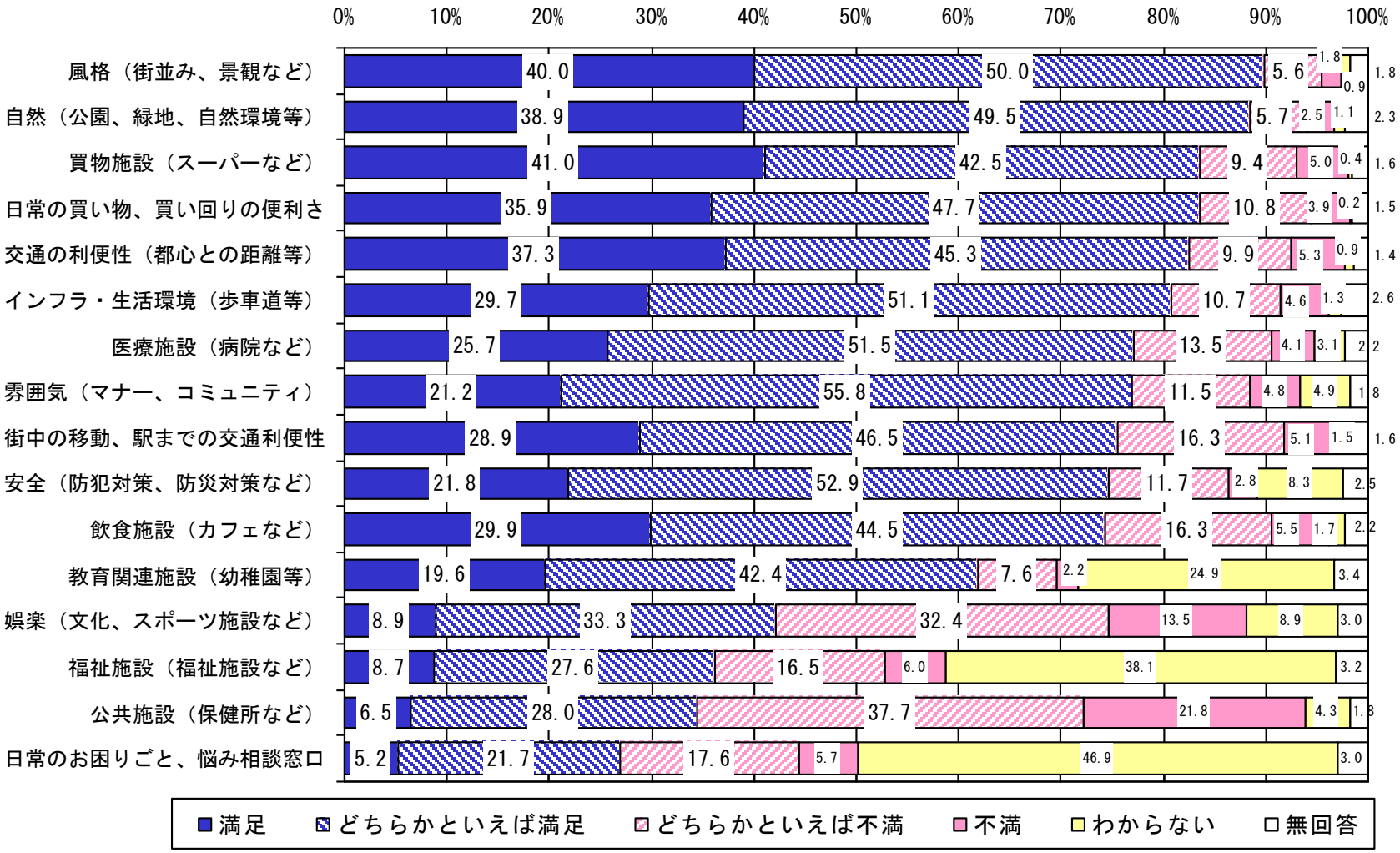


ベース人数：2017年１丁目397人、２丁目488人、３丁目346人、 2012年１丁目629人、２丁目489人、３丁目240人

２）たまプラーザの生活環境別満足度

・「街の風格」「自然」　「買い物施設」　「日常の買い物、買い回りの便利さ」「交通の利便性」は、満足している人の割合が特に高い。
（「満足」「どちらかといえば満足」を含めると８割以上。）

図表１－２－１　　たまプラーザに対する満足度：生活環境別：満足度順（Ｑ１）

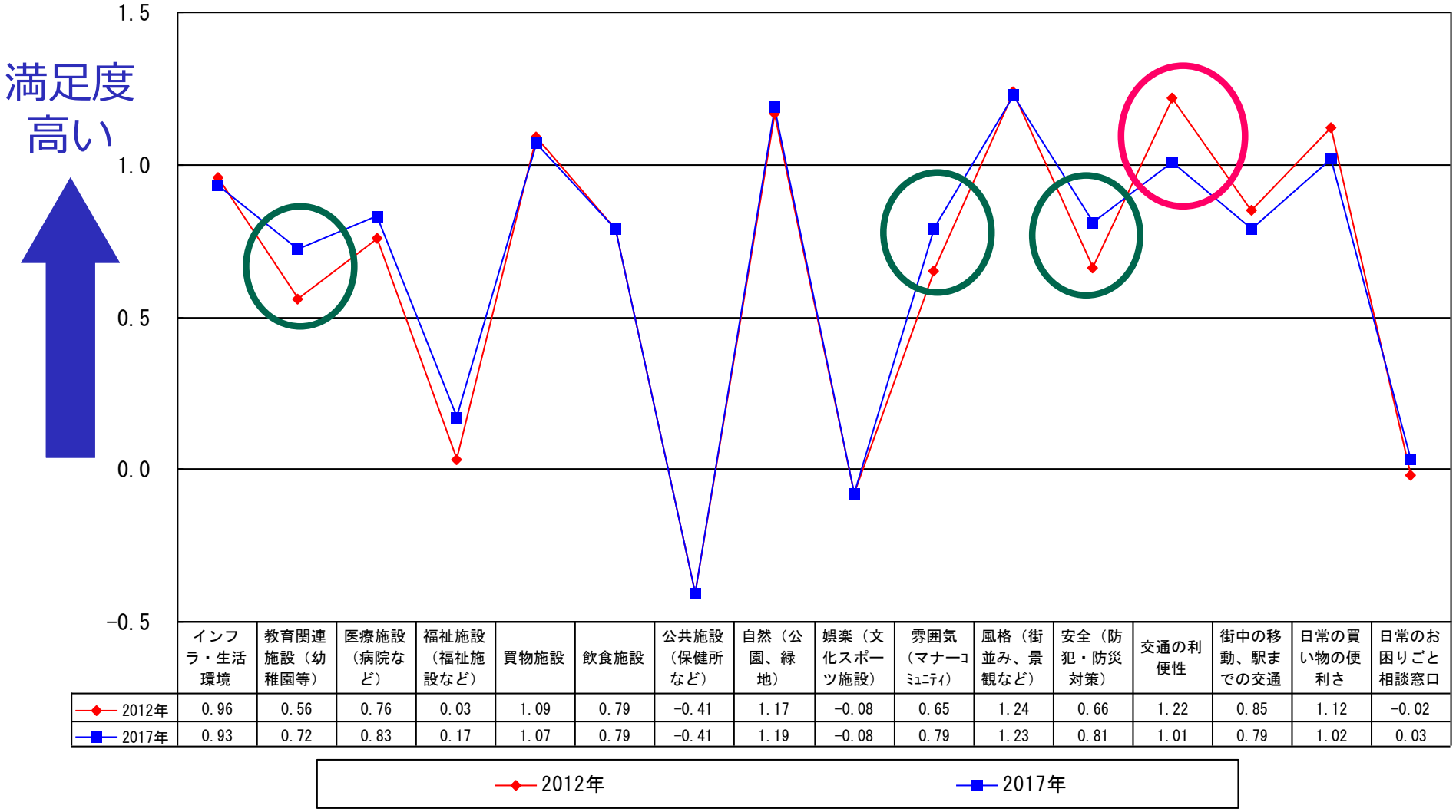


ベース人数：1255人

たまプラーザの生活環境別満足度

・前回調査に比べて、「雰囲気（マナー・コミュニティ）」「安全（防犯対策・防災対策）」「教育関連施設」の満足度は高まっているが、「交通の利便性」は低下。

図表１－２－２　　たまプラーザに対する満足度：生活環境別（時系列比較）



	インフラ・生活環境	教育関連施設（幼稚園等）	医療施設（病院など）	福祉施設（福祉施設など）	買物施設	飲食施設	公共施設（保健所など）	自然（公園、緑地）	娯楽（文化スポーツ施設）	雰囲気（マナーｺﾐｭﾆﾃｨ）	風格（街並み、景観など）	安全（防犯・防災対策）	交通の利便性	街中の移動、駅までの交通	日常の買い物の便利さ	日常のお困りごと相談窓口
2012年	0.96	0.56	0.76	0.03	1.09	0.79	−0.41	1.17	−0.08	0.65	1.24	0.66	1.22	0.85	1.12	−0.02
2017年	0.93	0.72	0.83	0.17	1.07	0.79	−0.41	1.19	−0.08	0.79	1.23	0.81	1.01	0.79	1.02	0.03

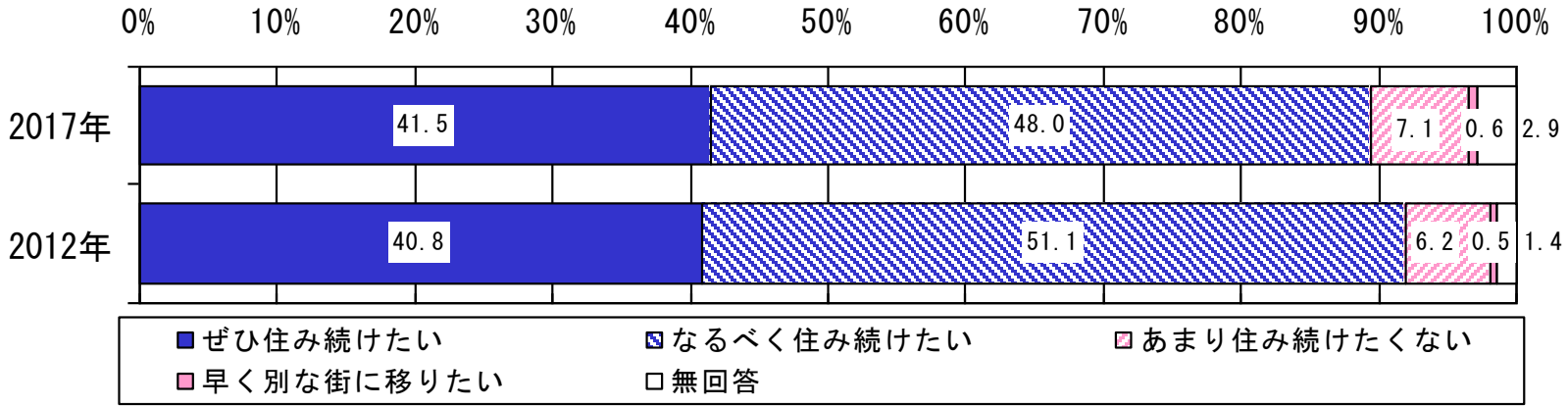
注：数値は加重平均　満足＝２、どちらかといえば満足＝１、どちらかといえば不満＝-１、不満＝-２　わからない＝０

３）定住意向

・前回と同様に、街の全体的な満足度の高さにも対応して、街への定住意向は非常に高い。ただし、必ずしも現在の住まいにこだわっていない人も３分の１程度みられる。

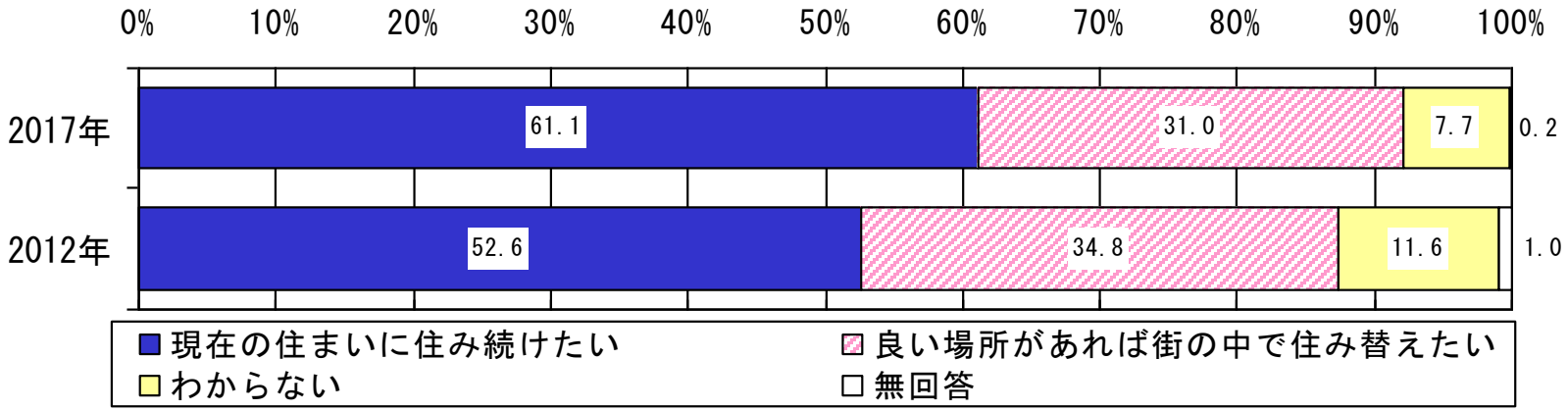
図表１－３－１　　定住意向

１）たまプラーザでの定住意向（Ｑ６）



ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

２）現在の住まいの今後の居住意向（Ｑ７）：たまプラーザに住み続けたい人対象



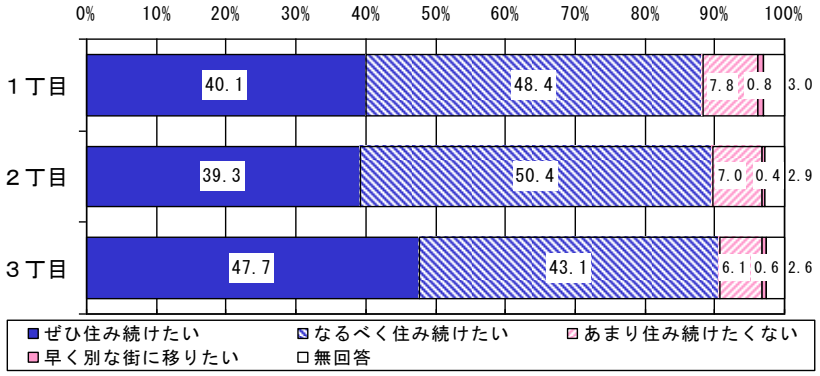
ベース人数：2017年1123人、2012年1248人

たまプラーザでの定住意向（エリア別）

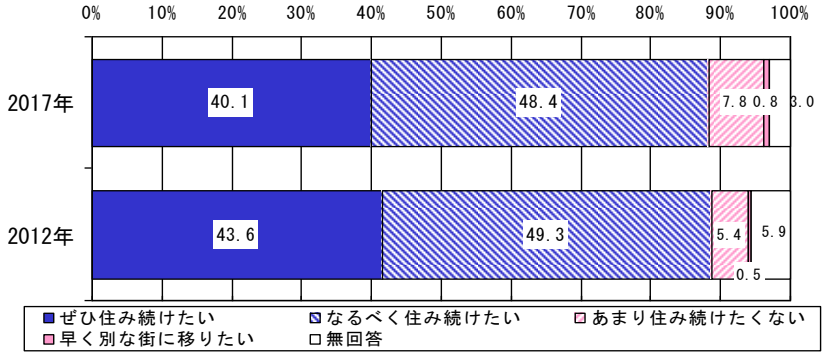
・たまプラーザの定住意向は、3丁目で「ぜひ住み続けたい」の割合が高い。
　2丁目・３丁目は「ぜひ住み続けたい」の割合が高まっているが、１丁目はやや低下。

図表１－３－２　たまプラーザでの定住意向（エリア別）

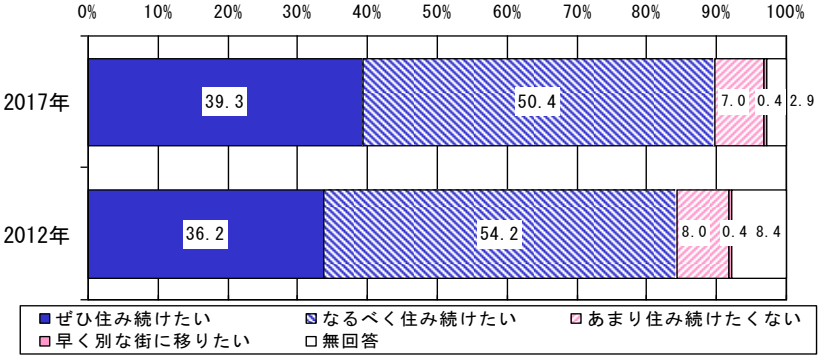
（2017年）



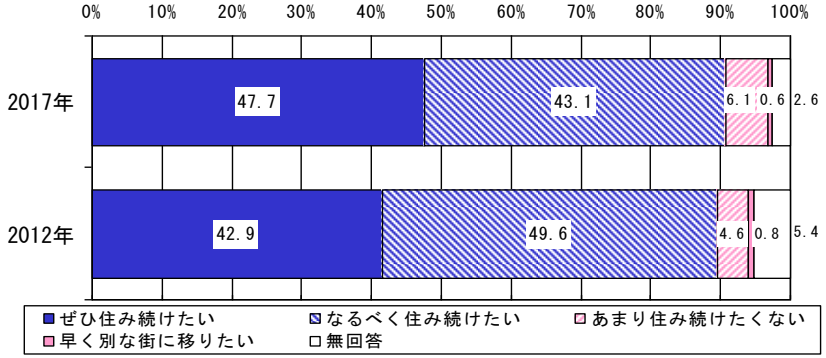
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）

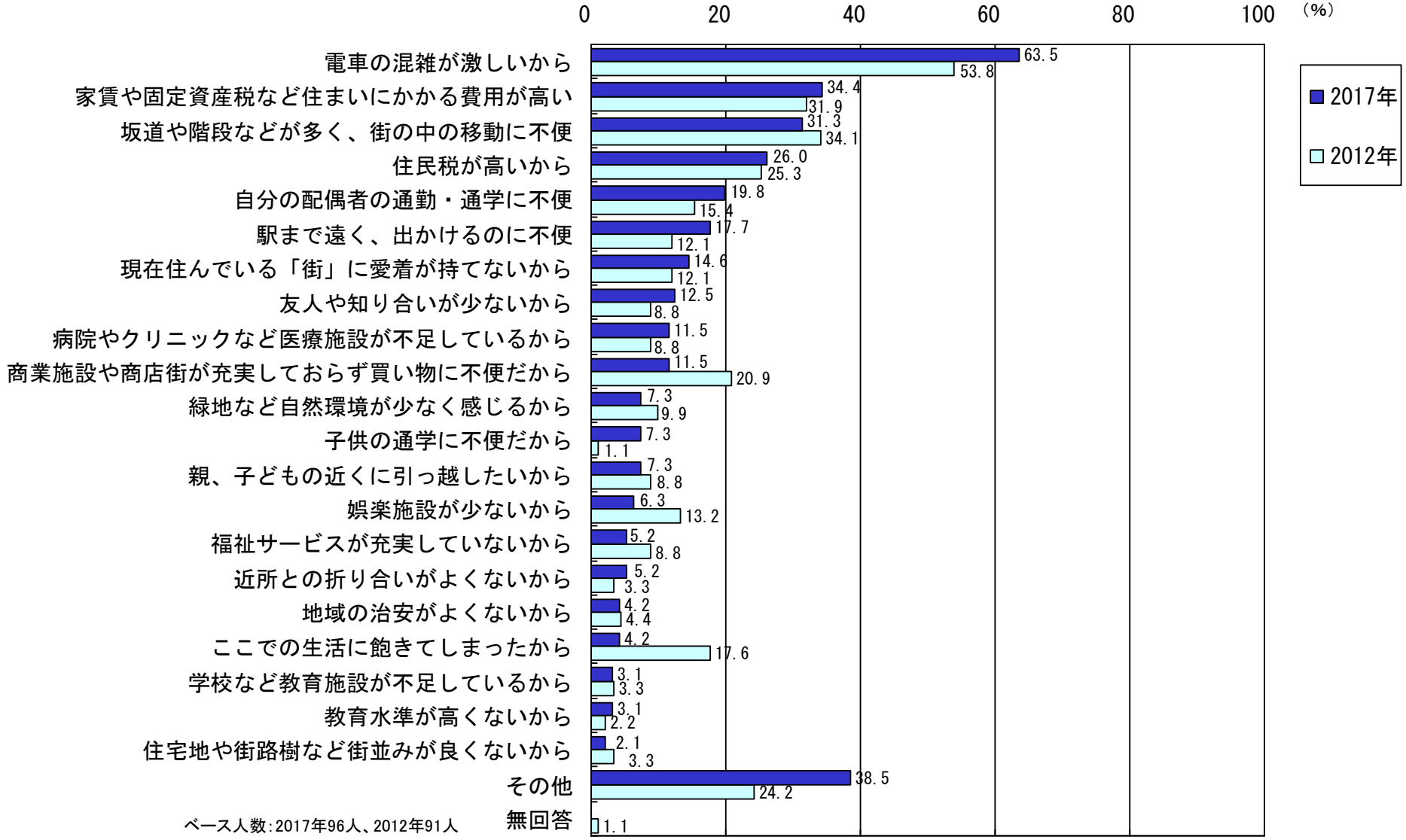


ベース人数：2017年１丁目397人、２丁目488人、３丁目346人、 2012年１丁目629人、２丁目489人、３丁目240人

定住意向：住み続けたくない理由

・住み続けたくない理由、前回以上に電車の混雑の割合が高い、ついで住まいにかかる費用が高い。

図表１－３－３　たまプラーザに住み続けたくない理由（Ｑ８）（複数回答）



ベース人数：2017年96人、2012年91人

２．地域とのつながり・交流・街づくりに関する実態とニーズ

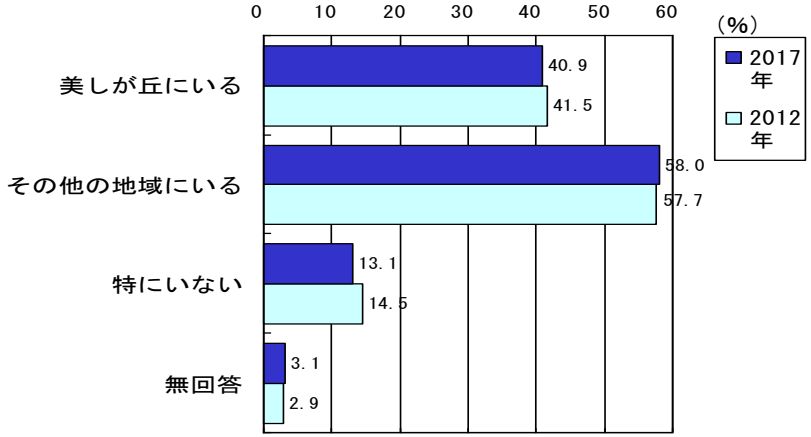
・地域のつながりがあると感じる人は半数超。
・地域で交流する機会があればよいと思う人は７割以上。
前回に比べて大きく増加。
・「次世代郊外まちづくり」の取り組みの認知は８割近い。

１）知人や友人の存在

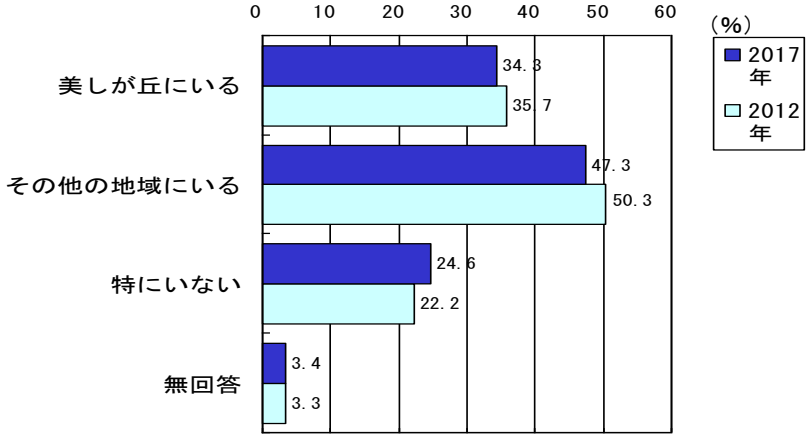
・「困ったときに助けを頼める」「必要なときに情報助言をくれる」「悩んでいることを話せる」友人のいない人が、前回同様に２割程度みられる。

図表２－１　　知人や友人の存在（Ｑ９）（複数回答）

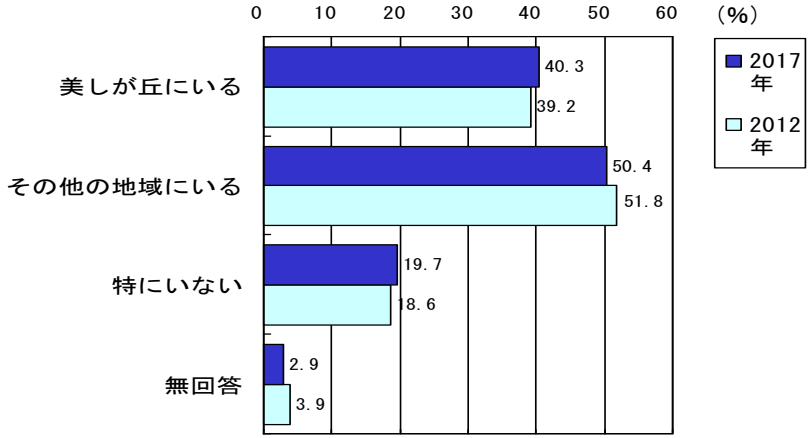
１）一緒に遊ぶ・楽しく過ごせる人



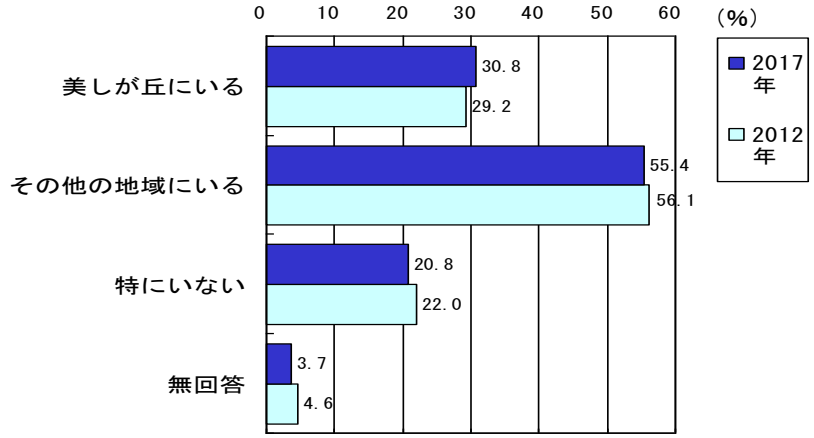
２）困ったときに助けや手伝いを頼める人



３）必要なときに情報をくれたり助言をくれる人



４）悩んでいることや、気持ちや考えを話せる人



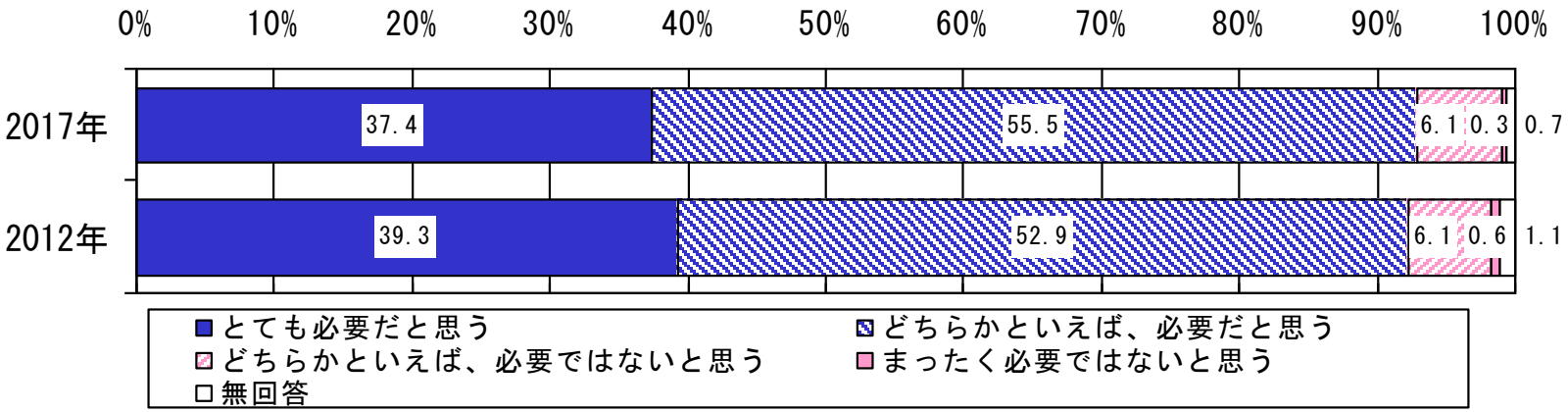
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

２）地域のつながりニーズと現状

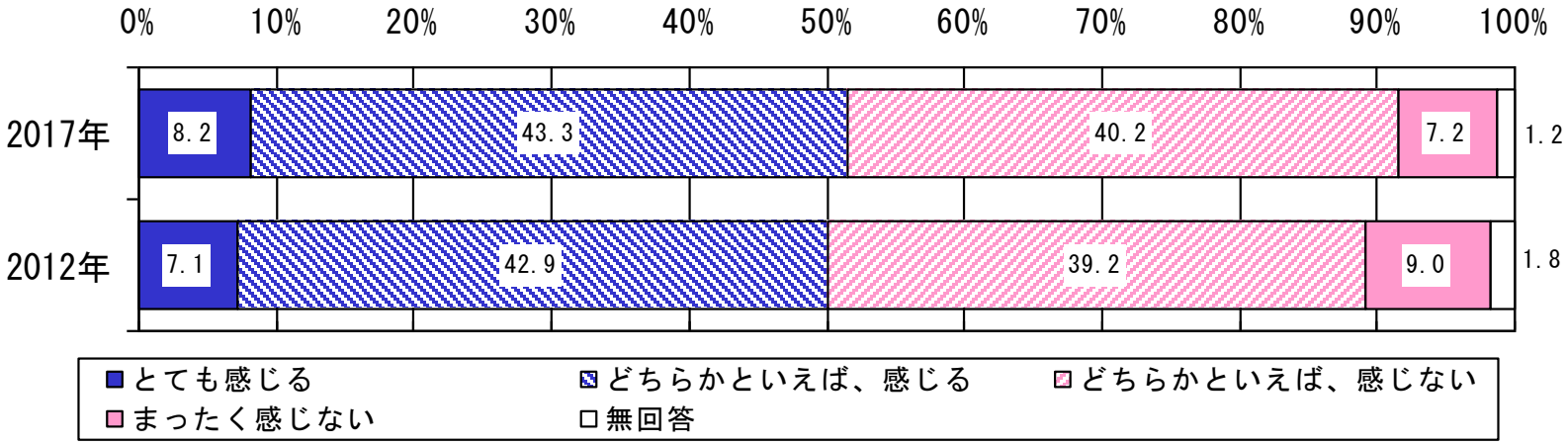
・「地域のつながりを必要」と感じる人は「どちらかといえば」を含めると９割以上。
「地域とのつながりがある」と感じる人は半数超、前回に比べて若干ではあるが増加。

図表２－２－１　　地域のつながりニーズと現状

１）地域のつながりが必要と感じるか（Q10）



２）住まいの地域に地域とのつながりがあると感じるか（Q11）



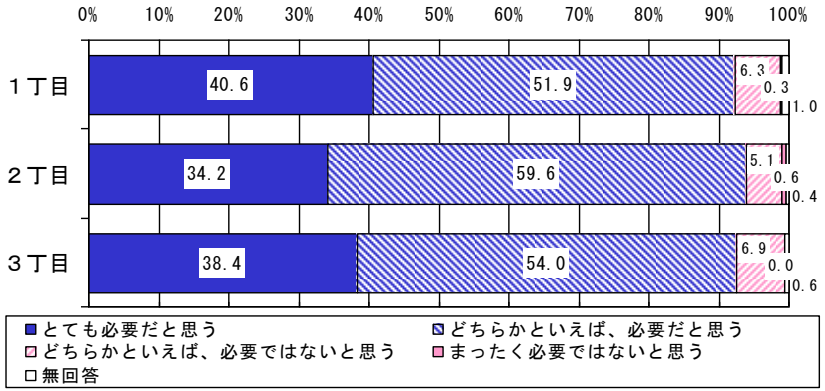
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

地域のつながりが必要と感じるか（エリア別）

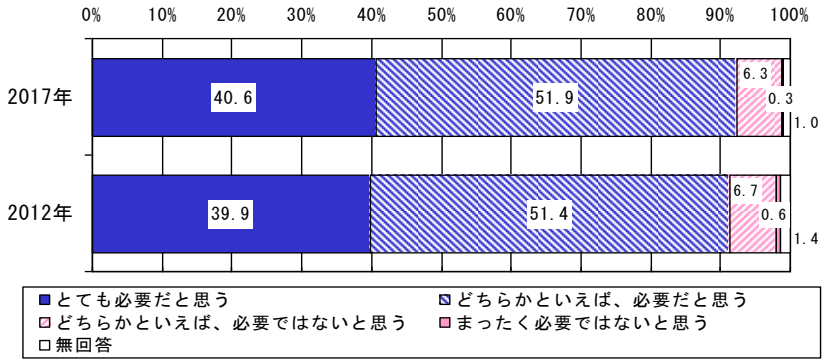
・地域のつながりを「とても必要」と感じている人は１丁目で高く、２丁目でやや低い。
前回に比べて２丁目の割合が４ポイント低下。

図表２－２－２　地域のつながりが必要と感じるか（エリア別）

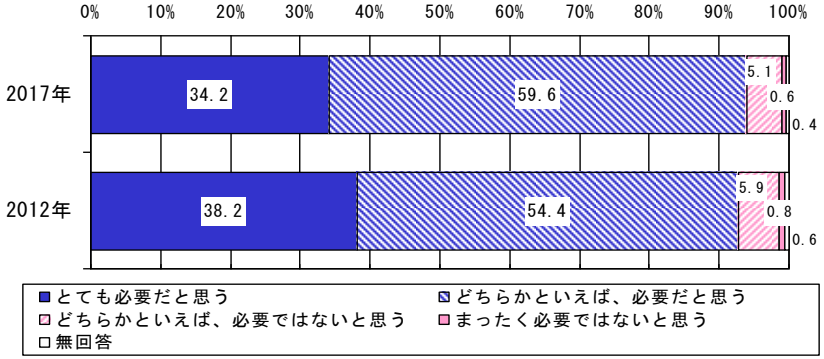
（2017年）



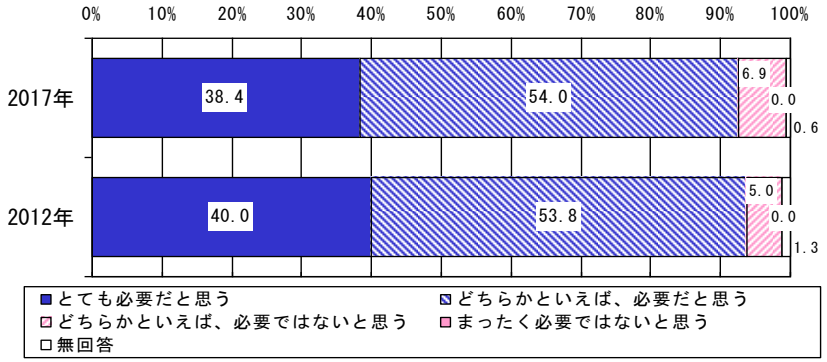
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）



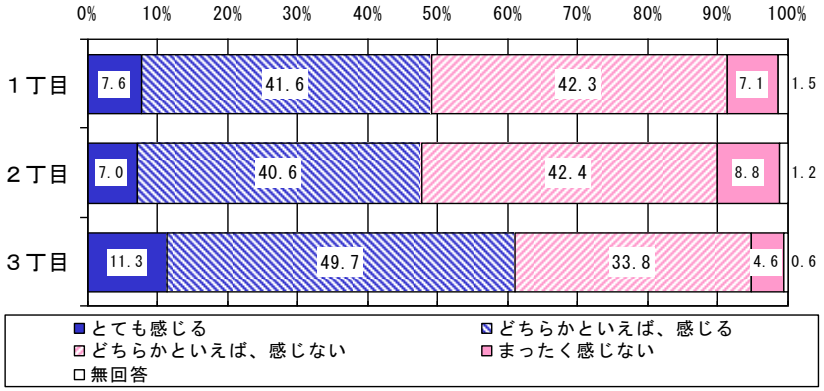
ベース人数：2017年１丁目397人、２丁目488人、３丁目346人、 2012年１丁目629人、２丁目489人、３丁目240人

地域のつながりがあると感じるか（エリア別）

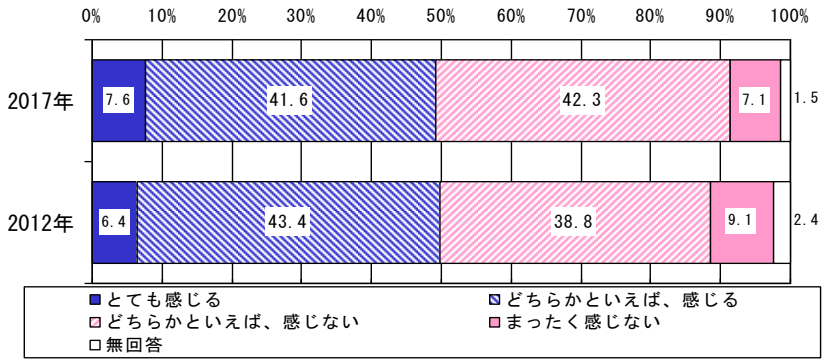
・地域のつながりがあると「感じる」人は３丁目で割合が高め。
「とても感じる」「どちらかといえば感じる」人の割合は２丁目・３丁目でやや増加。

図表２－２－３　地域のつながりがあると感じるか（エリア別）

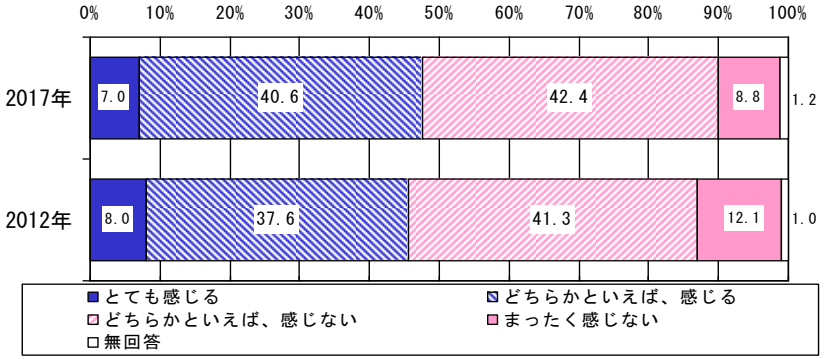
（2017年）



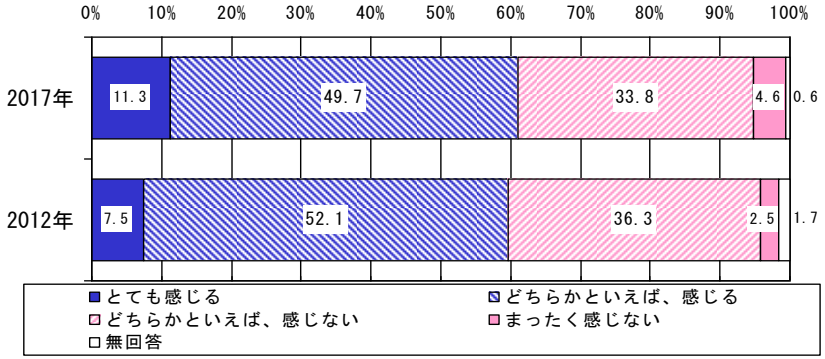
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）

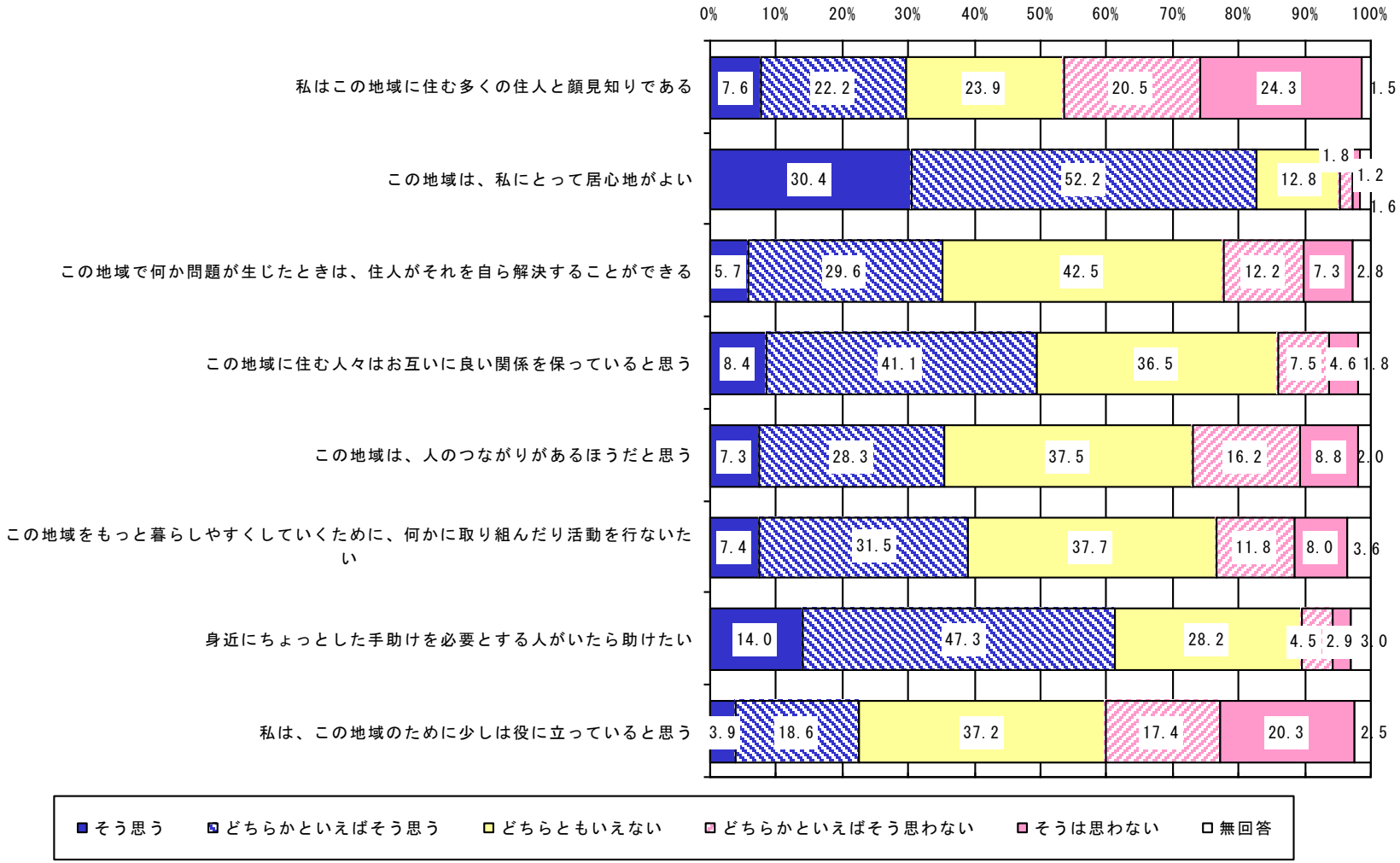


ベース人数：2017年１丁目397人、２丁目488人、３丁目346人、 2012年１丁目629人、２丁目489人、３丁目240人

３）地域とのつながりに対する考え

・「地域の居心地」のよさを感じている人、また「手助けを必要とする人がいたら助けたい」という意識を持つ人が多い。

図表２－３－１　　地域とのつながりに対する考え（Q12）

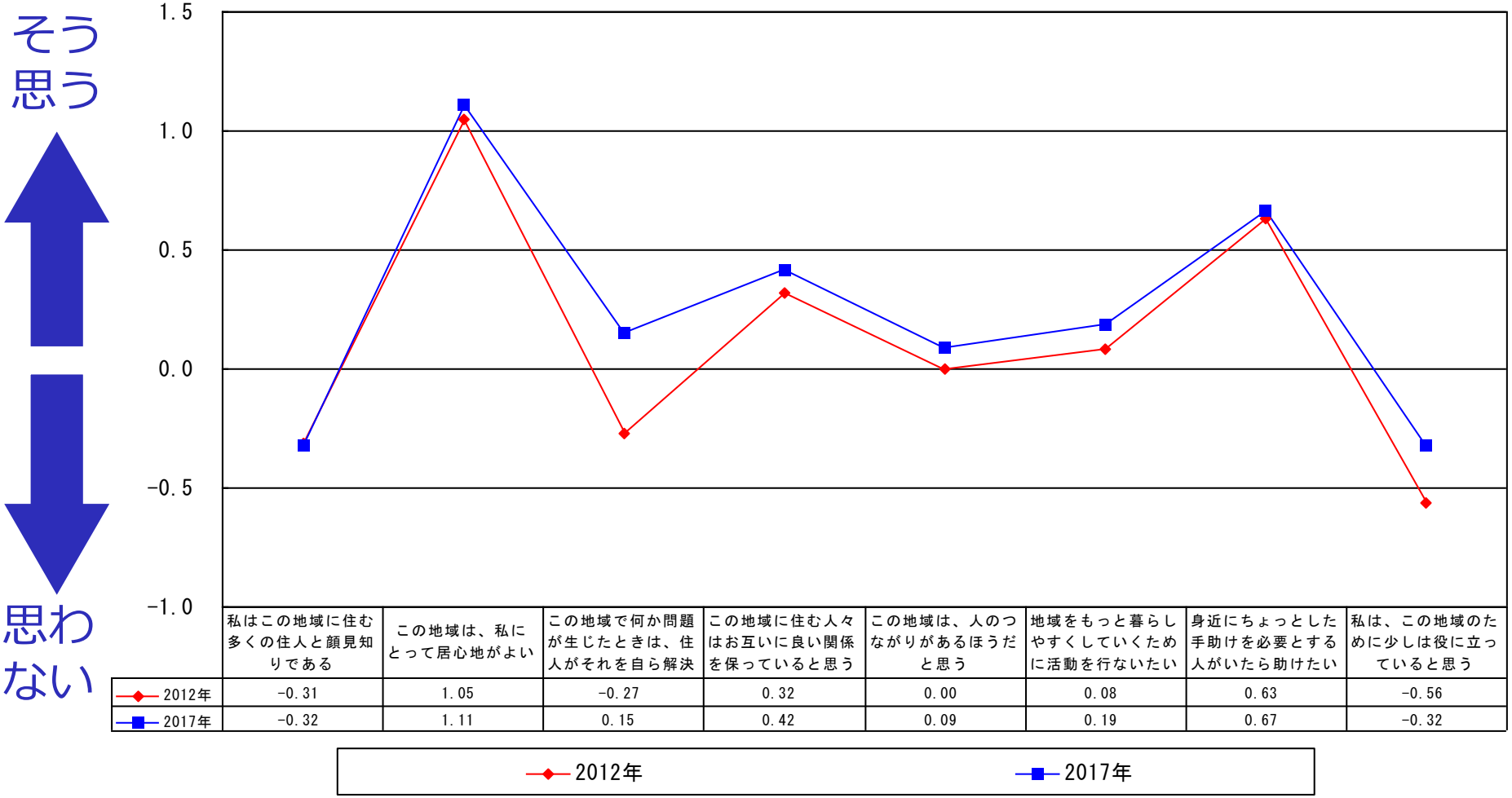


ベース人数:1255人

地域とのつながりに対する考え

・全体では「この地域に住む多くの住人と顔見知り」以外の項目は、前回よりも平均スコアがアップ。

図表２－３－２　地域とのつながりに対する考え（時系列比較）



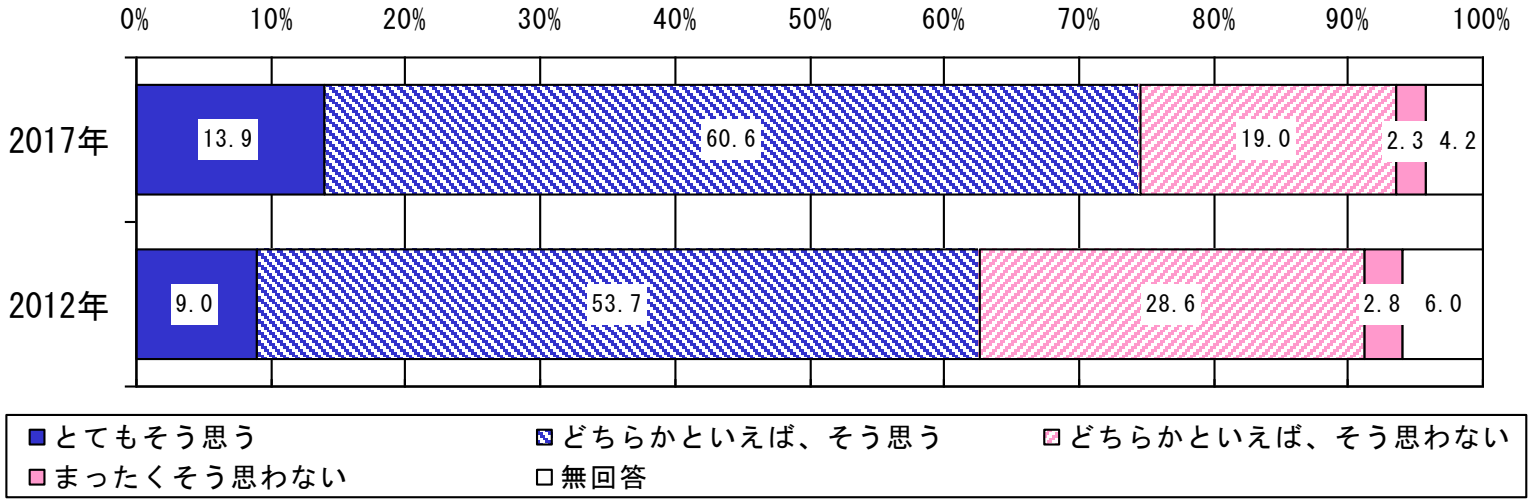
	私はこの地域に住む多くの住人と顔見知りである	この地域は、私にとって居心地がよい	この地域で何か問題が生じたときは、住人がそれを自ら解決	この地域に住む人々はお互いに良い関係を保っていると思う	この地域は、人のつながりがあるほうだと思う	地域をもっと暮らしやすくしていくために活動を行ないたい	身近にちょっとした手助けを必要とする人がいたら助けたい	私は、この地域のために少しは役に立っていると思う
2012年	-0.31	1.05	-0.27	0.32	0.00	0.08	0.63	-0.56
2017年	-0.32	1.11	0.15	0.42	0.09	0.19	0.67	-0.32

注：数値は加重平均　そう思う＝２、どちらかといえばそう思う＝１、どちらともいえない＝0、
どちらかといえばそうは思わない＝-１、そうは思わない＝-２

４）地域での交流機会ニーズ

・地域で交流する機会があればよいと思う人は、「どちらかといえば」を含めると7割以上。前回よりも10ポイント以上増加。

図表２－４－１　地域での交流機会ニーズ：地域で、いろいろな人と交流する機会があればよい（Q13）



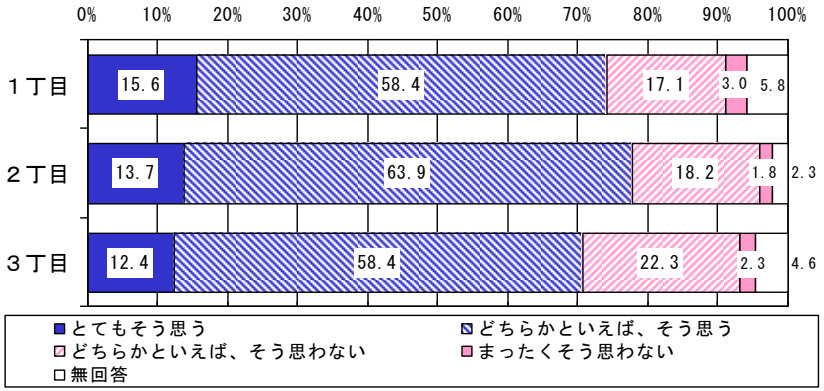
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

地域での交流機会ニーズ（エリア別）

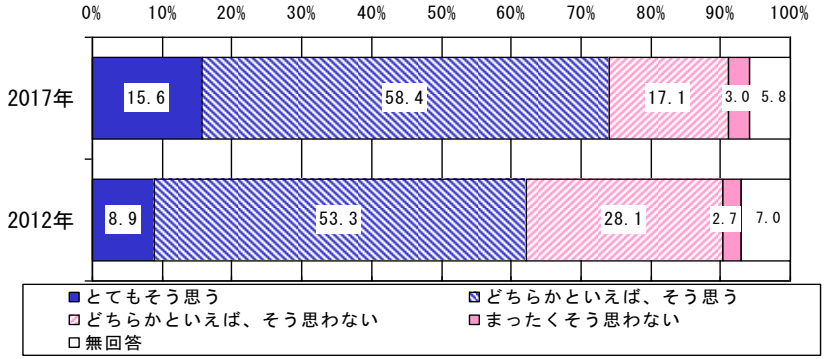
・「地域で、いろいろな人と交流する機会があればよい」について、「とてもそう思う」は１丁目、「どちらかといえば」を含めれば２丁目で割合が高い。
・前回に比べて、交流する機会があればよいと思う割合は各エリアともに高まっている。

図表２－４－２　地域での交流機会ニーズ：地域で、いろいろな人と交流する機会があればよい（エリア別）

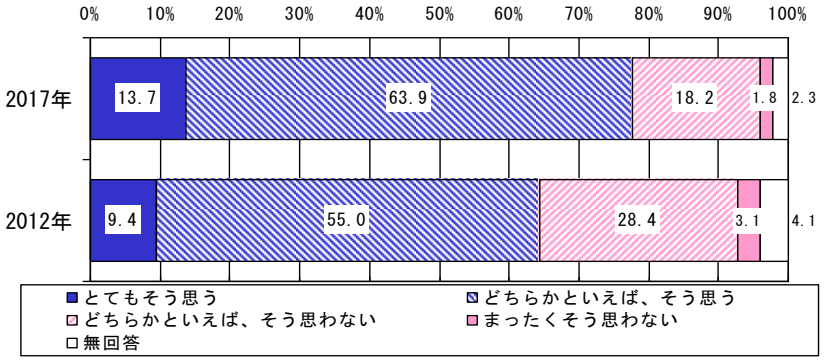
（2017年）



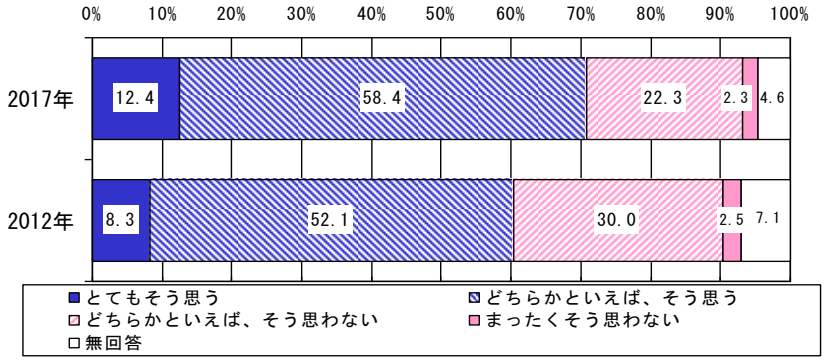
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）

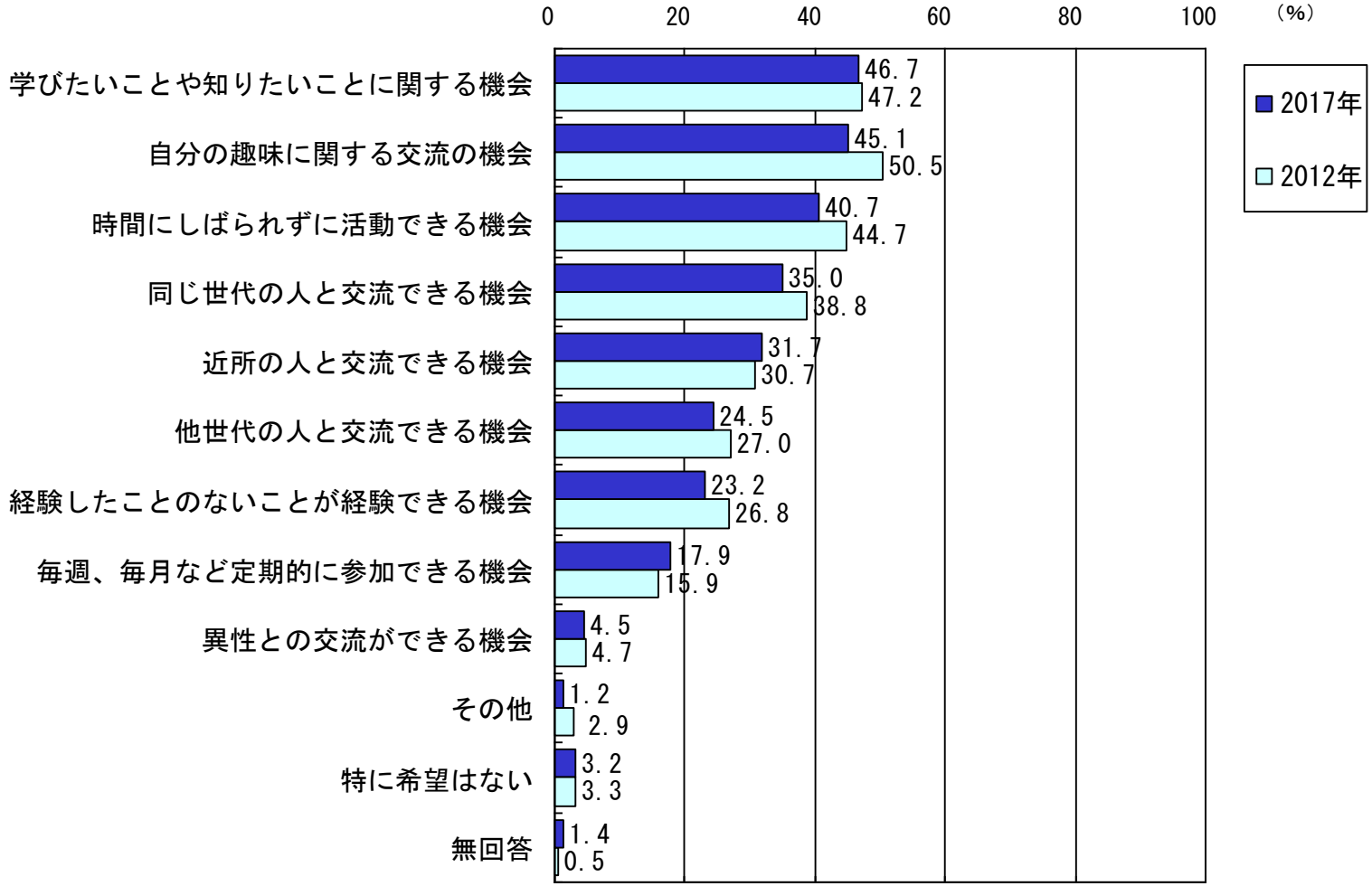


ベース人数：2017年１丁目397人、２丁目488人、３丁目346人、 2012年１丁目629人、２丁目489人、３丁目240人

地域での交流機会ニーズ（あれば良いと思う交流や活動）

・あればよいと思う機会は、おおむね前回と同様の傾向。自分の関心や趣味に関するニーズが高い。

図表２－４－３　地域での交流機会ニーズ：あればよいと思う交流や活動の機会（Ｑ14）（複数回答）

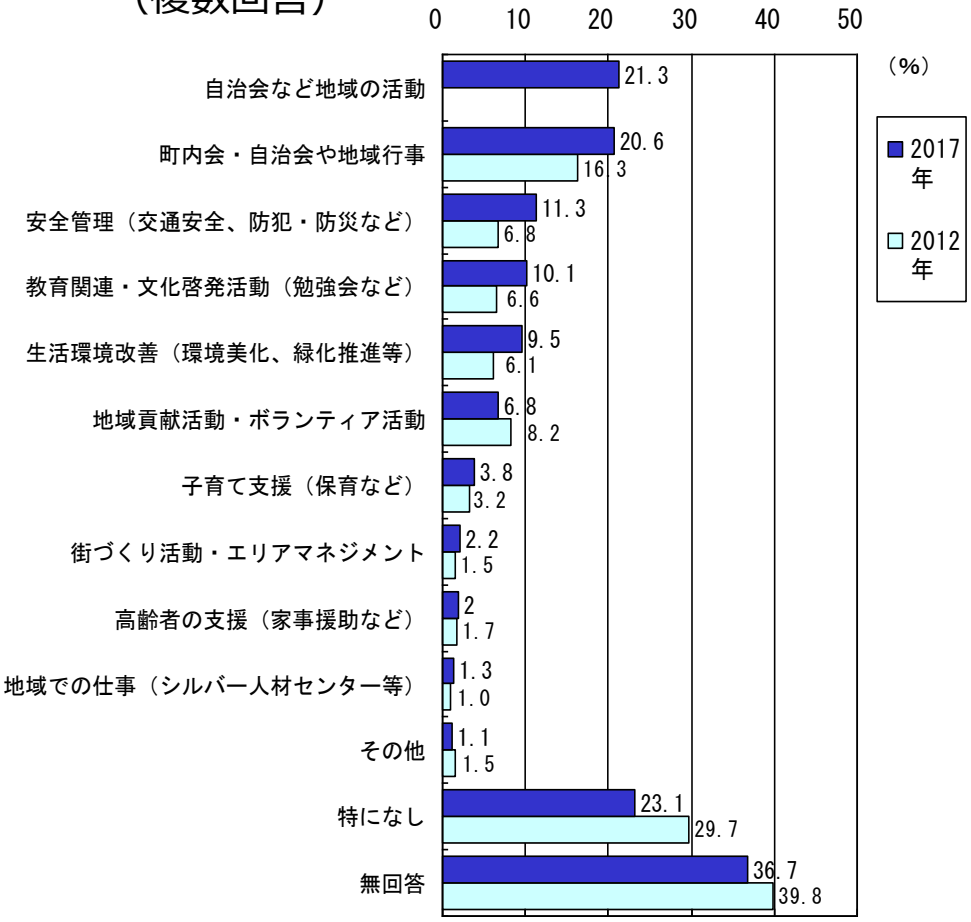


ベース人数：2017年935人、2012年851人

５）参加している活動・今後参加したい活動

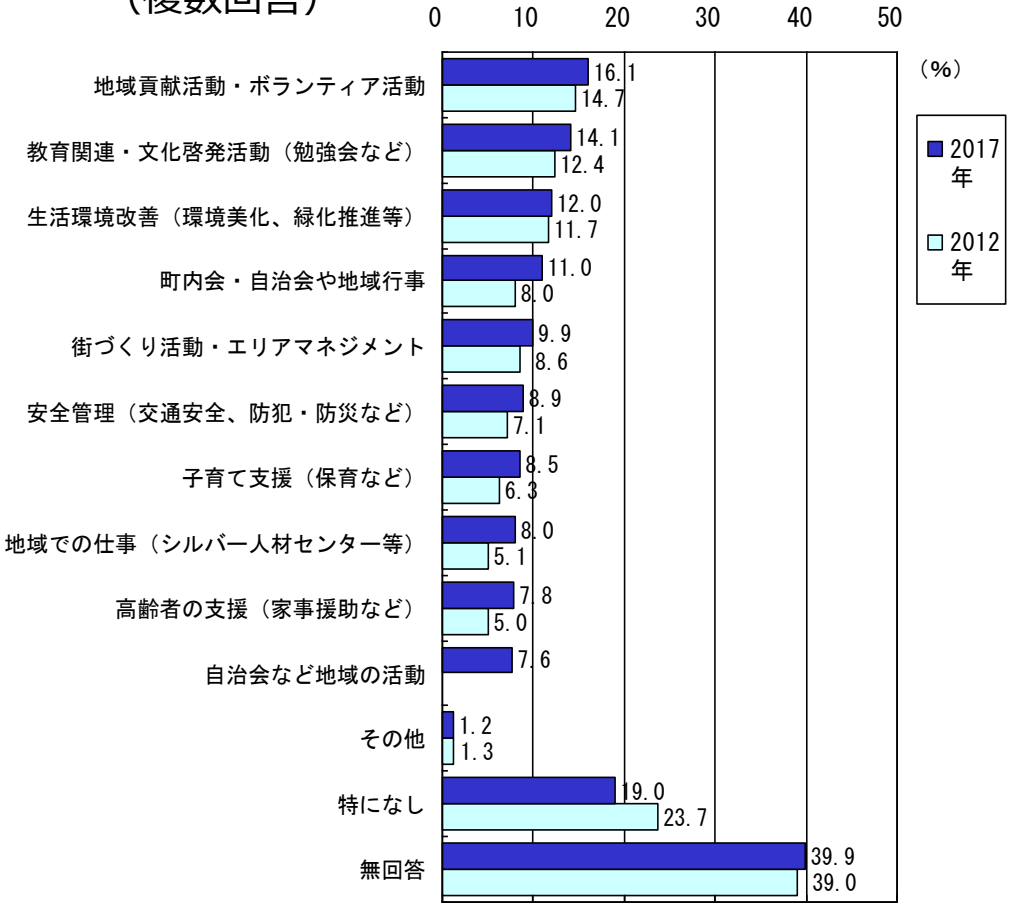
・現在の参加活動は「自治会など地域の活動」「町内会・自治会や地域行事」が２割以上。安全管理や教育関連・文化啓発活動、生活環境改善活動への参加率が前回に比べて増加。
・今後参加したい活動は「地域貢献活動・ボランティア活動」が最も多いほか、勉強会など「教育関連・文化啓発活動」、環境美化や緑化推進など「生活環境改善」も１割以上。

図表２－５－１　現在参加している活動（Q16）（複数回答）



ベース人数：2017年935人、2012年851人

図表２－５－２　今後参加したい活動（Q17）（複数回答）

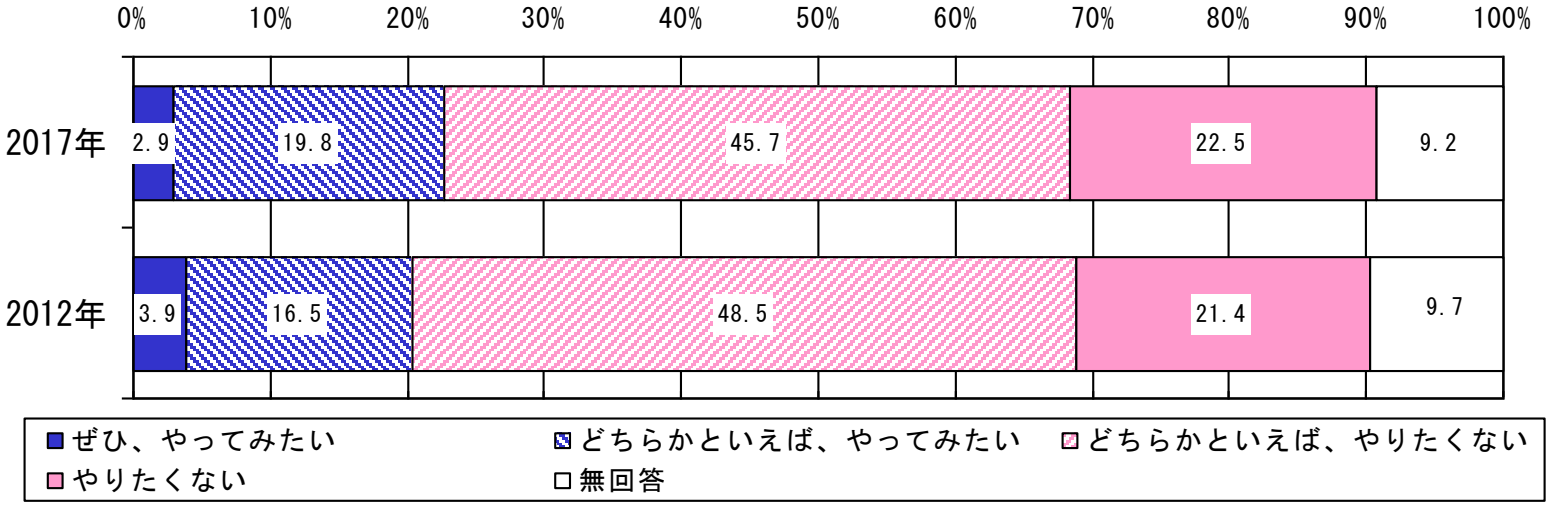


ベース人数：2017年935人、2012年851人

６）街づくりの担い手となる意向

・「街づくりの担い手」を「ぜひやってみたい」人は３％、「どちらかといえばやってみたい」を含めると２割以上の人に意向がある。前回よりも割合がやや増加。

図表２－６－１　街づくりの担い手となる意向（Q26）



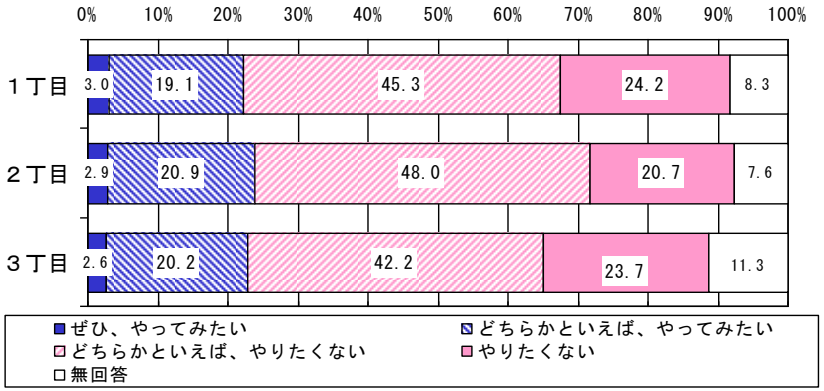
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

街づくりの担い手となる意向（エリア別）

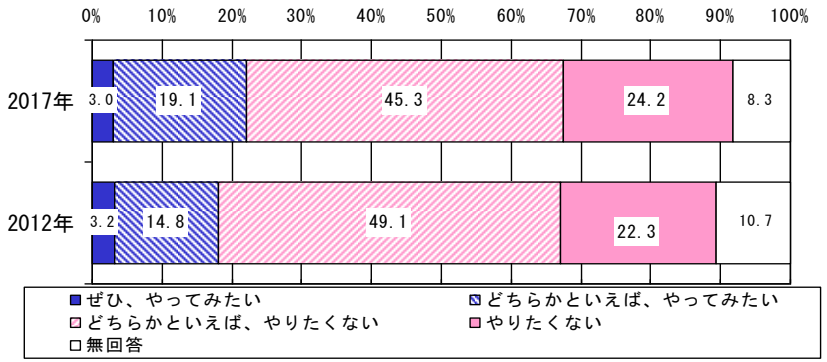
・街づくりの担い手となる意向は「どちらかといえば」を含めると２丁目で割合がやや高い。各エリアとも前回より「やってみたい」人の割合がやや増加。

図表２－６－２　街づくりの担い手となる意向（エリア別）

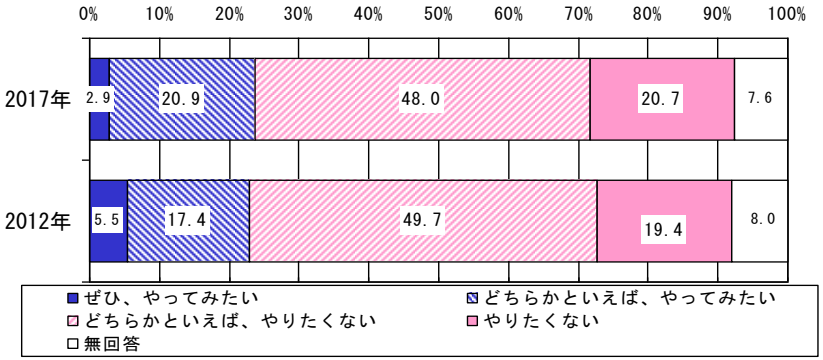
（2017年）



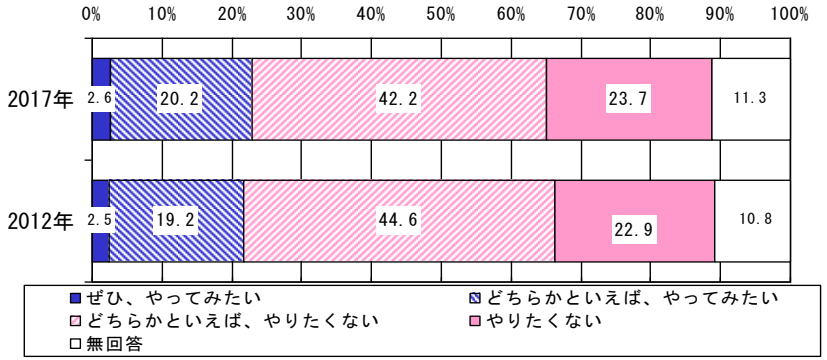
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）

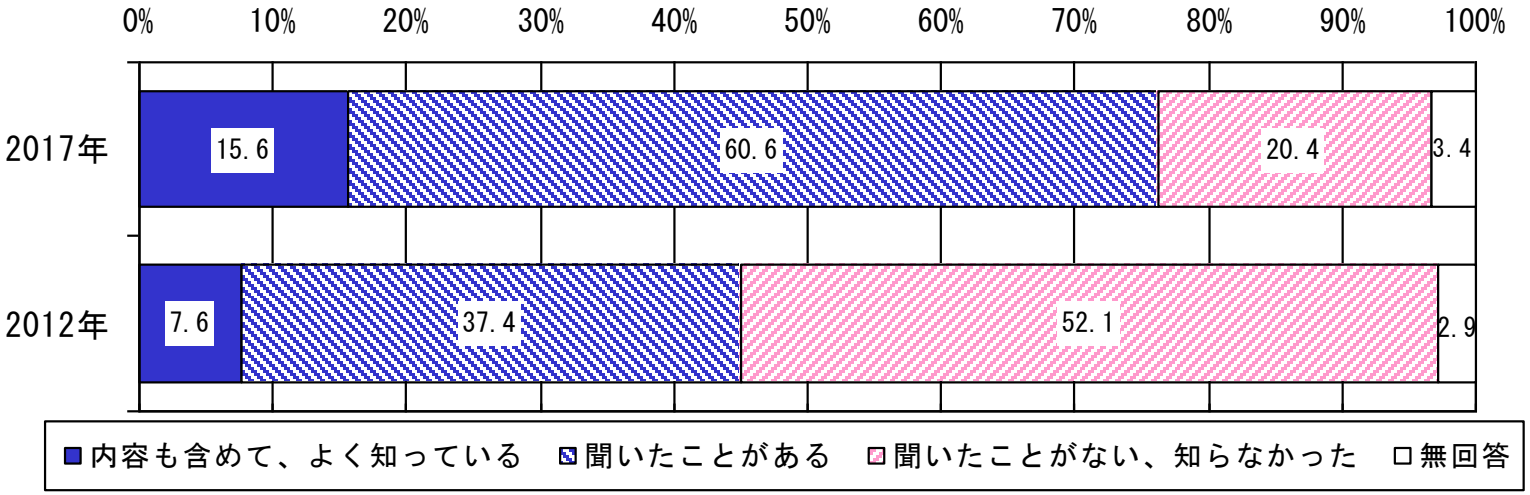


ベース人数：2017年１丁目397人、２丁目488人、３丁目346人、 2012年１丁目629人、２丁目489人、３丁目240人

７）次世代郊外まちづくりの認知・参加経験：認知

・「次世代郊外まちづくり」の取り組みについて「内容も含めてよく知っている」は16%、「聞いたことがある」人も含めれば認知率は76%にのぼり、前回に比べて大きく増加。

図表２－７－１　「次世代郊外まちづくり」の取り組み認知（Q41）



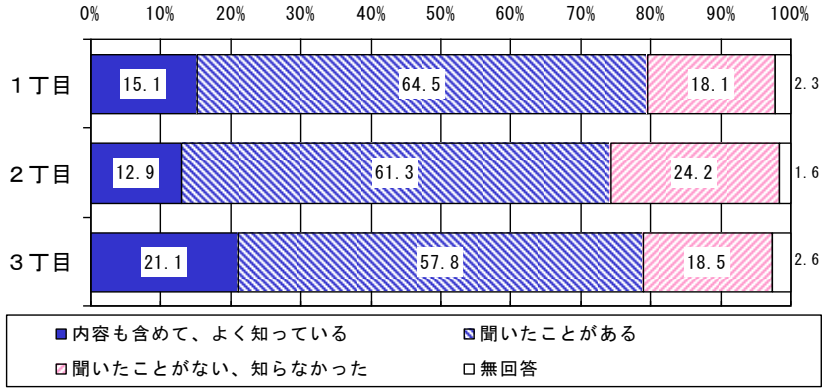
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

次世代郊外まちづくりの認知（エリア別）

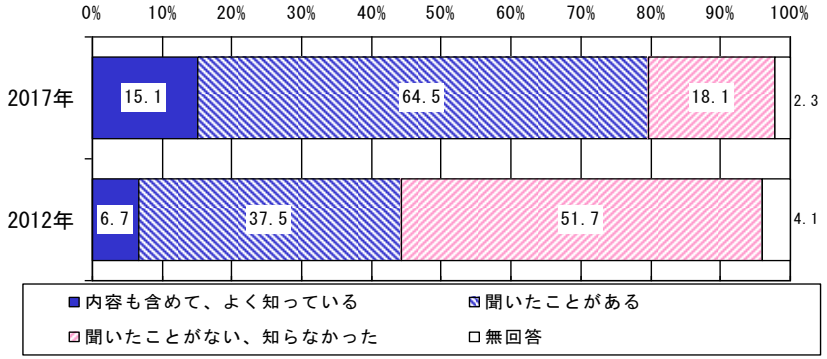
・「次世代郊外まちづくり」の取り組みの認知率は、特に３丁目で高い。
各エリアとも、認知率は前回に比べて大きく増加。

図表２－７－２　「次世代郊外まちづくり」の取り組み認知（エリア別）

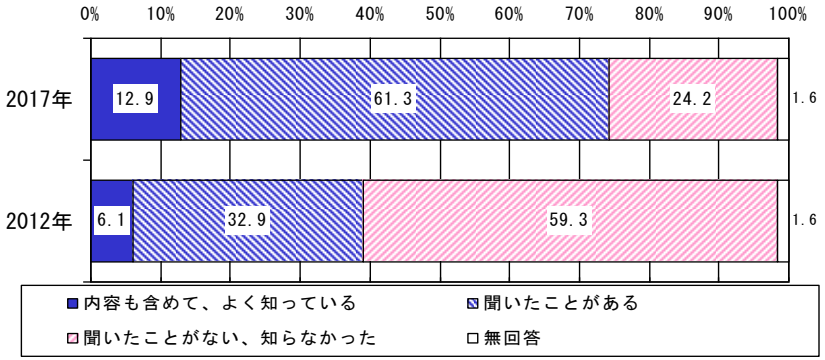
（2017年）



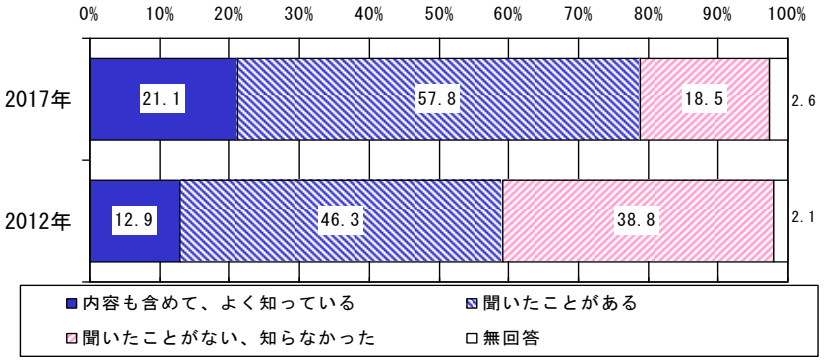
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）



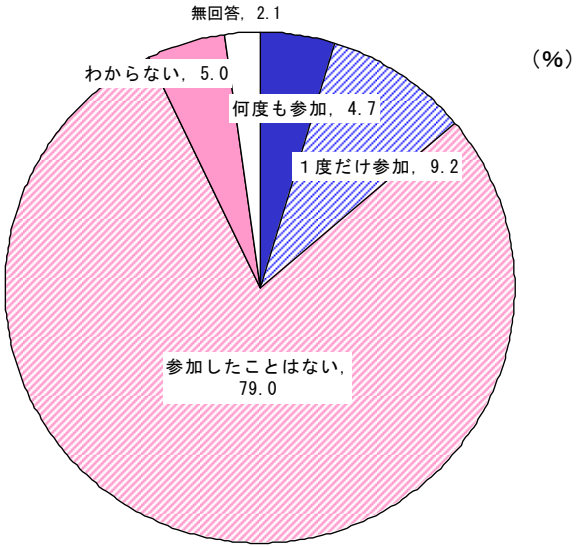
ベース人数：2017年１丁目397人、２丁目488人、３丁目346人、 2012年１丁目629人、２丁目489人、３丁目240人

次世代郊外まちづくりの認知・参加経験：参加経験

・参加経験は認知者ベースで14%（何度も参加している人５%、一度だけ参加したことがある人９%）。「WISE Living Lab」を利用したことがある人は16%。

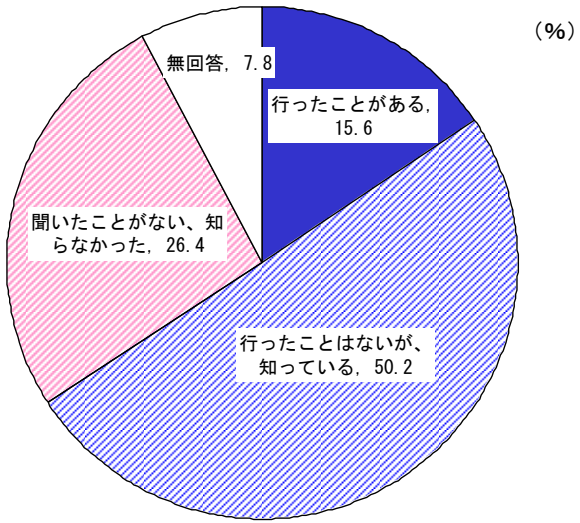
図表２－７－３　「次世代郊外まちづくり」参加経験

１）参加経験（認知者ベース）(Q42)



ベース人数:956人

２）「WISE Living Lab」の利用経験（認知者ベース）(Q43)



ベース人数:956人

■「次世代郊外まちづくり」参加経験

	認知者ベース（956人）	全体ベース（1255人）
何度も参加している	4.7%	3.7%
一度だけ参加したことがある	9.2%	7.3%
参加したことがない	79.0%	64.1%
わからない	5.0%	4.1%
無回答	2.1%	21.0%

■「WISE Living Lab」の利用経験

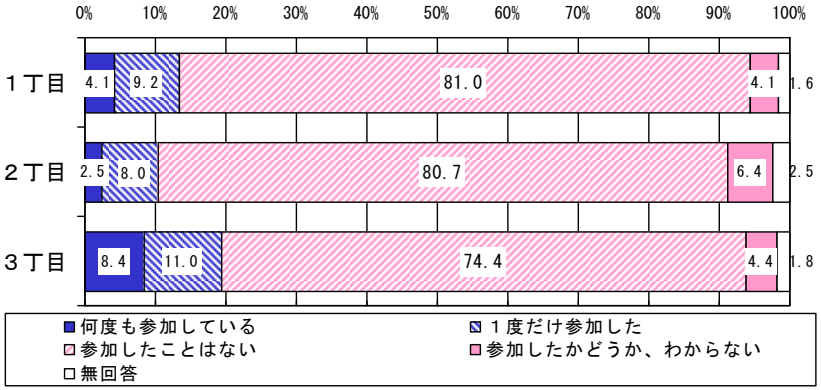
	認知者ベース（956人）	全体ベース（1255人）
行ったことがある	15.6%	11.9%
行ったことはないが知っている	50.2%	38.2%
聞いたことがない知らなかった	26.4%	20.1%
無回答	7.8%	29.8%

次世代郊外まちづくりの参加経験（エリア別）

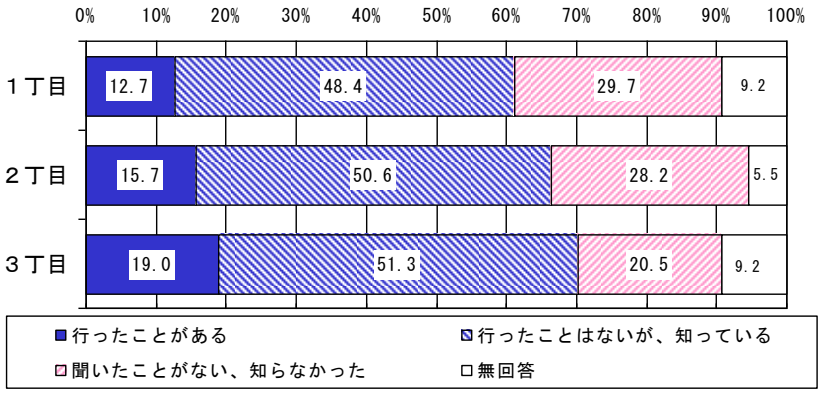
・「次世代郊外まちづくり」の取り組みへの参加経験や、「WISE Living Lab」の利用経験は、３丁目の割合が他エリアに比べて高い。

図表２－７－４　「次世代郊外まちづくり」参加経験（エリア別）

（参加経験：認知者）



（「WISE Living Lab」認知・利用経験：認知者）



ベース人数：１丁目316人、２丁目362人、３丁目273人

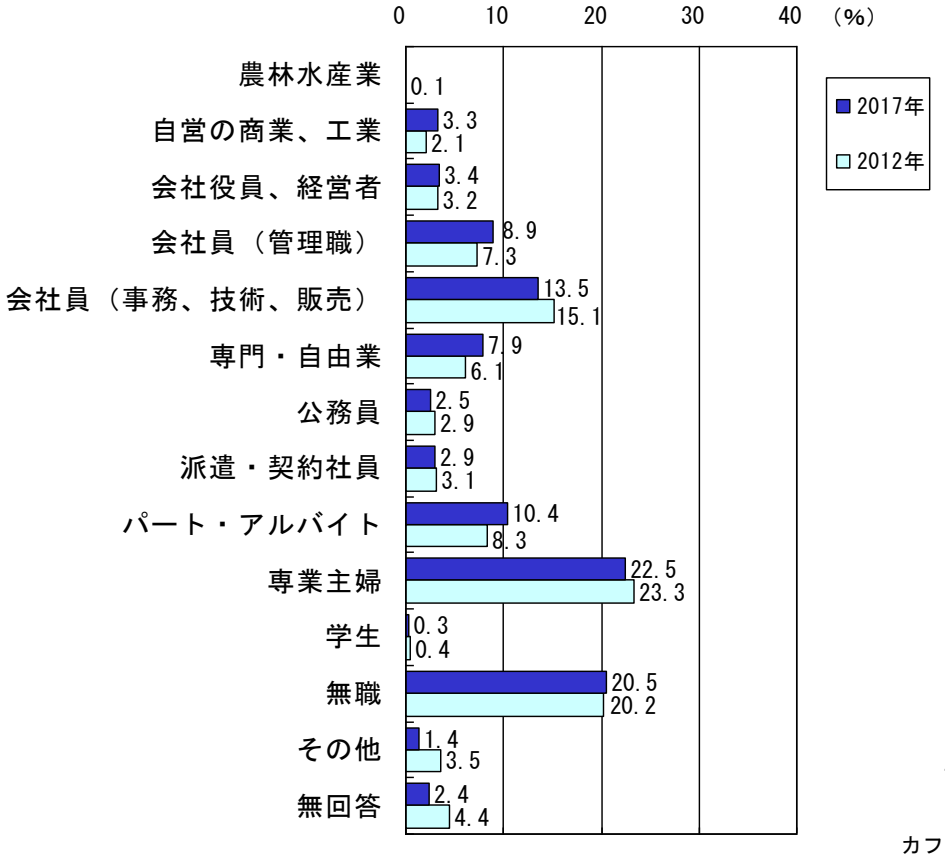
３．働き方の実態とニーズ

・フレックスタイム・在宅・シェアオフィス等、多様な働き方の人が２割程度。
・働き続けたい意向のある人は半数超。　「社会の役に立ちたい」「自己実現のため」との回答も３割以上。

１）就業状況

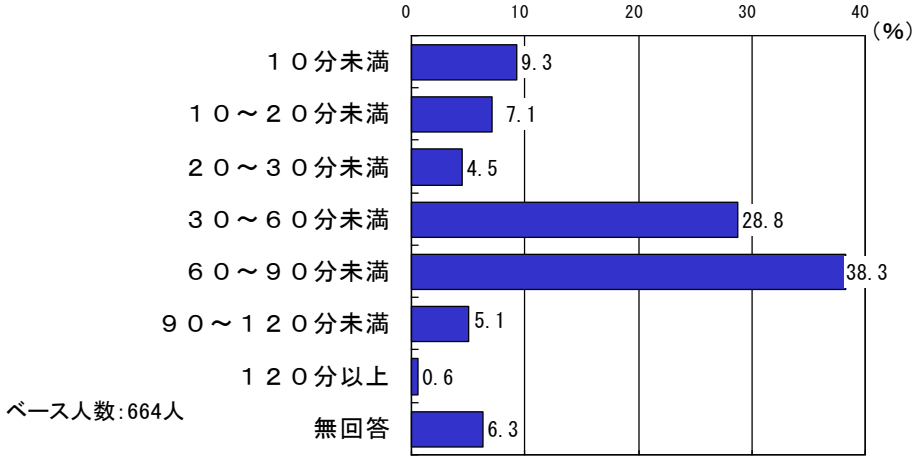
・対象者の職業は、会社員・専業主婦・無職がそれぞれ２割以上。
・働いている人の勤務先までの所要時間は60～90分未満が最も多く約４割。平均47.3分。
・「いつも決められた時間に出社している」人が74%の一方、「フレックスタイム」や「在宅」「シェアオフィス」等で働くことがあるなど、多様な働き方の人も２割程度。

図表３－１－１　対象者職業（Q18）



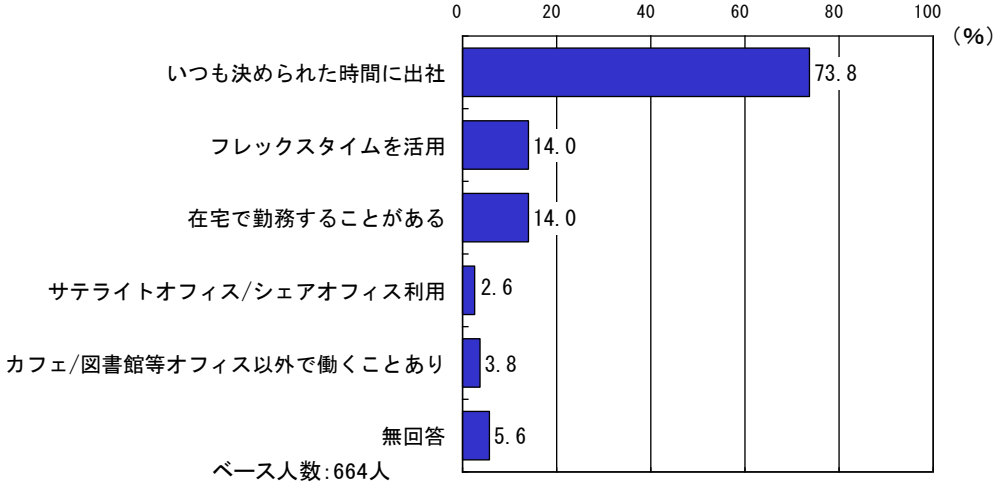
ベース人数:2017年1255人、2012年1358人

図表３－１－２　所要時間（Q19）



ベース人数:664人

図表３－１－３　働き方（Q20）（複数回答）

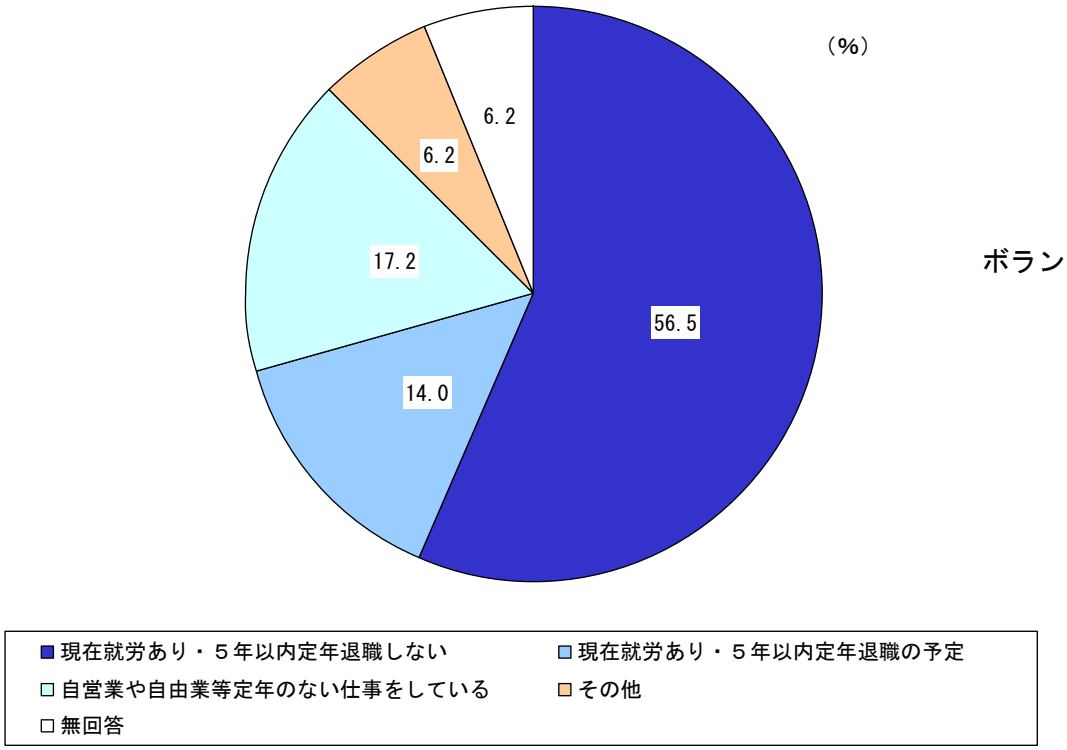


ベース人数:664人

２）定年退職の予定・定年退職後の過ごし方

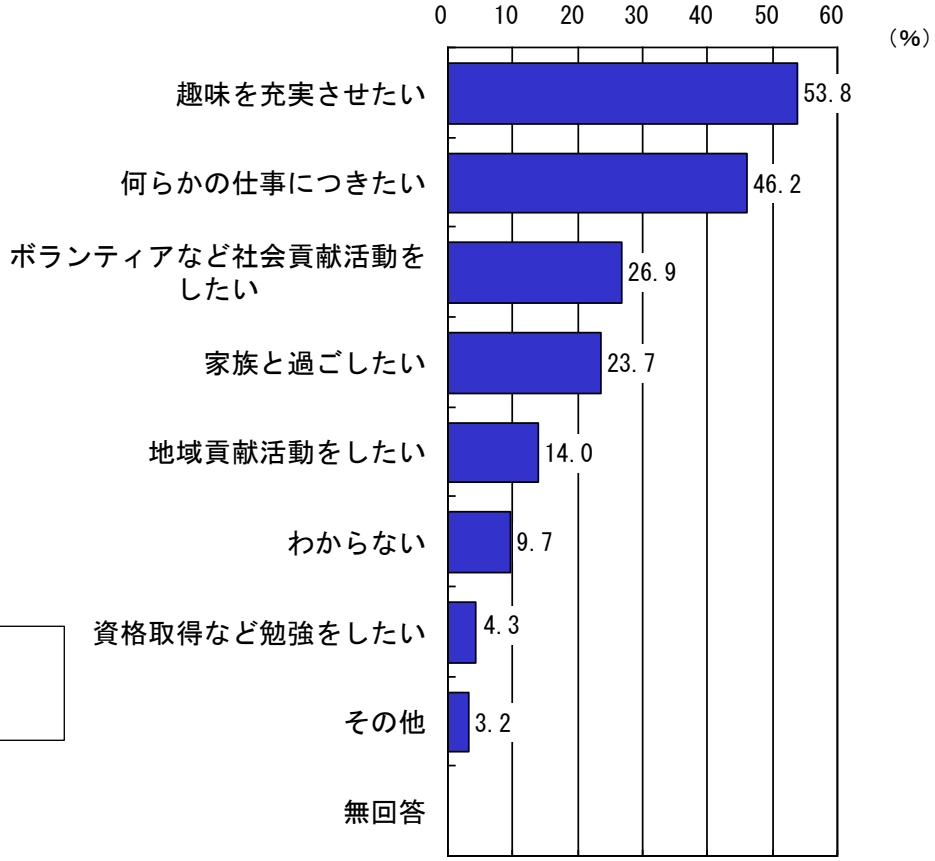
・現在働いている人で、この５年以内に定年退職の予定の人は14%。
・定年退職後の過ごし方の希望は「趣味を充実させたい」「何らかの仕事につきたい」が４割以上。「ボランティアなど社会貢献活動をしたい」も３割近い。

図表３－２－１　定年退職の予定（Q21）



ベース人数:664人

図表３－２－２　定年退職後の過ごし方（Q22）
定年退職予定の人（複数回答）

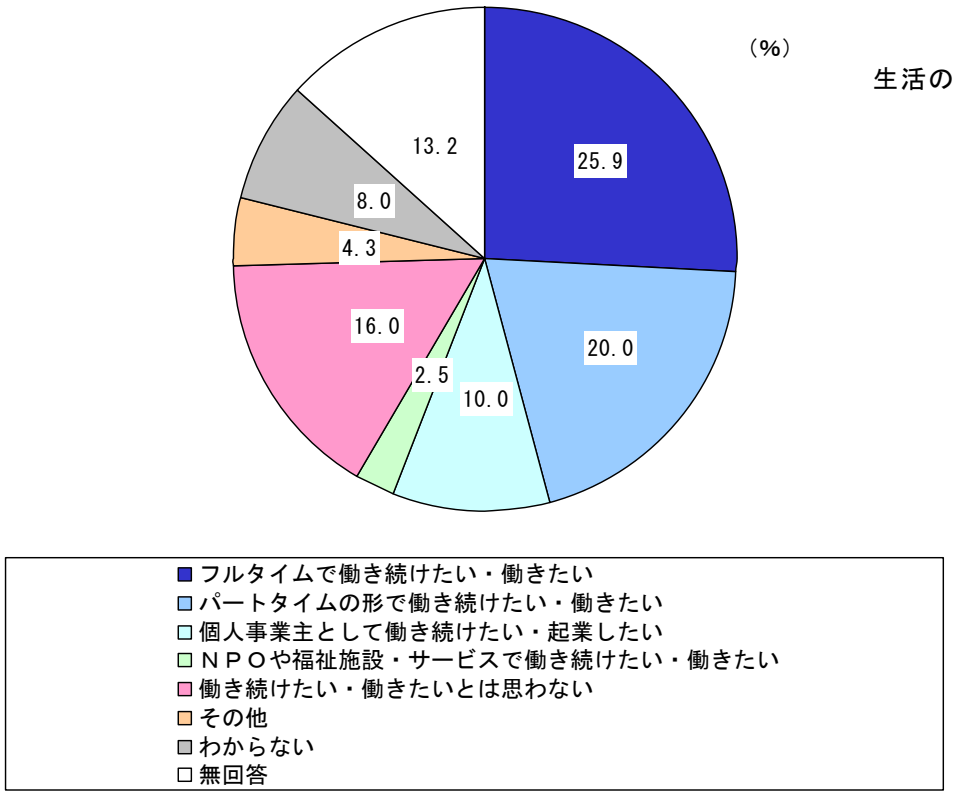


ベース人数:93人

３）働き続けたい意向

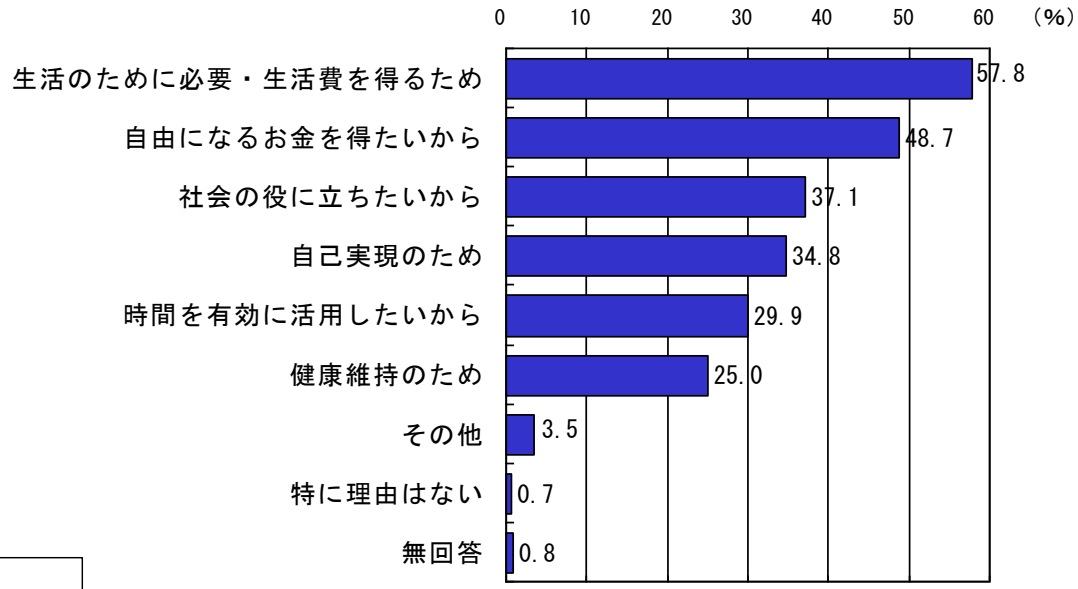
・働き続けたい意向のある人の割合は半数以上。
・働き続けたい理由は、「生活のために必要・生活費を得るため」「自由になるお金を得たい」等お金の面での理由が多いが、「社会の役に立ちたい」「自己実現のため」といった回答も3割以上。

図表３－３－１　働き続けたい意向（Q23）



ベース人数:1255人

図表３－３－２　働き続けたい理由（Q24・Q25）
働き続けたい人（複数回答）



■最もあてはまる理由

生活のために必要・生活費	34.4%
自由になるお金を得たい	14.1%
社会の役にたちたい	10.5%
自己実現のため	10.5%
時間を有効に活用したい	7.8%
健康維持のため	6.1%

ベース人数:733人

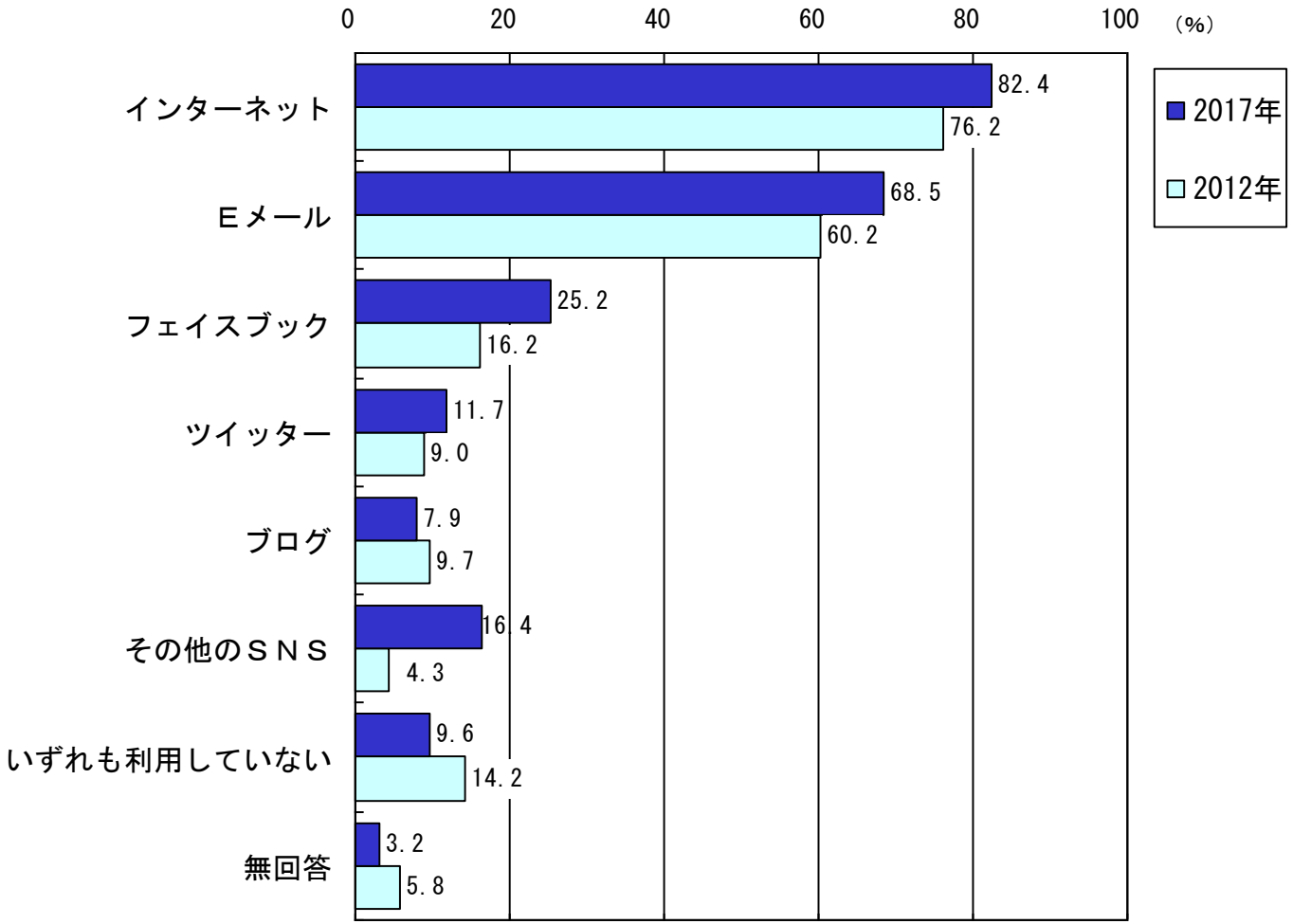
４．情報・移動・環境に関する実態とニーズ

・コミュニケーションツール、インターネットが８割以上、
　Ｅメールが約７割。９割以上は何らかのツールを利用。
・移動に対するニーズ、「歩行者・自動車分離の安全な経路」
「どこでも乗り降りできる公共交通手段」を３割以上が挙げる。
・無駄なエネルギーを使わない・リサイクルに取り組む人が目立つ
　ほか「地域全体で省エネに取り組むべき」と考える人も約８割。

１）利用しているコミュニケーションツール

・利用しているコミュニケーションツールは、ブログをのぞいて前回よりも増加。インターネットが82%と最も多く、ついでＥメールが約７割。フェイスブックも25%が利用。いずれも利用していない人は１割未満にとどまる（９割以上はいずれか利用）。

図表４－１　利用しているコミュニケーションツール（Q28）（複数回答）

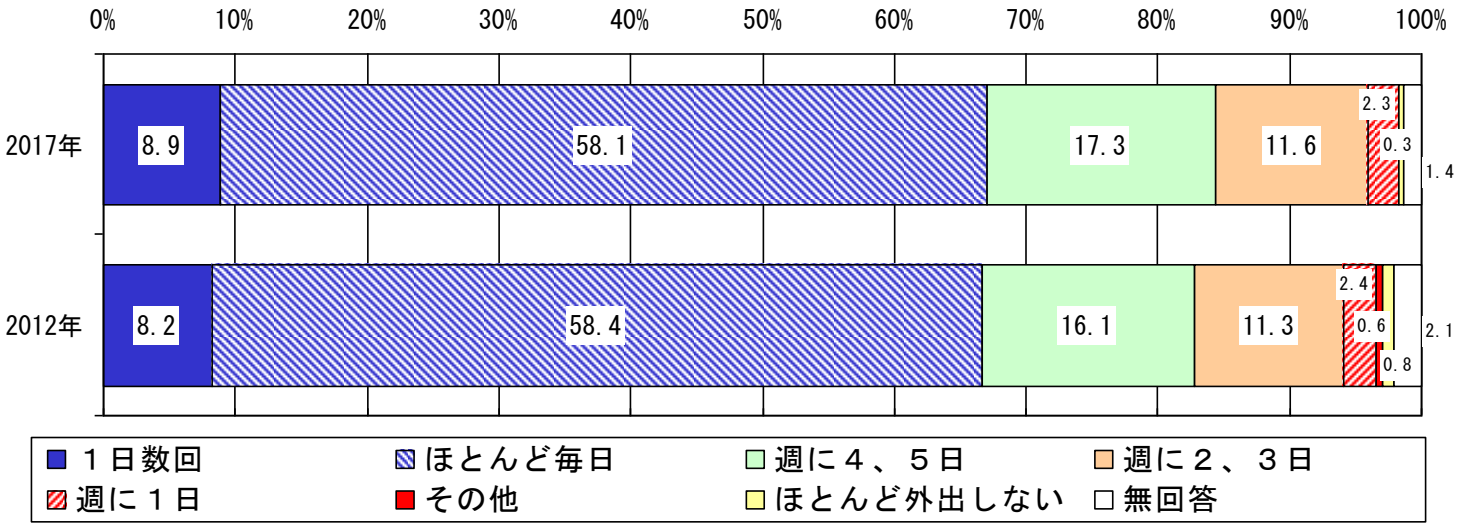


ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

２）外出頻度

・外出の頻度は、前回とほぼ同様の結果。ほとんど毎日外出する人が７割近い一方で、週に２、３日またはそれ以下も２割近い。

図表４－２－１　　外出頻度（Q29）

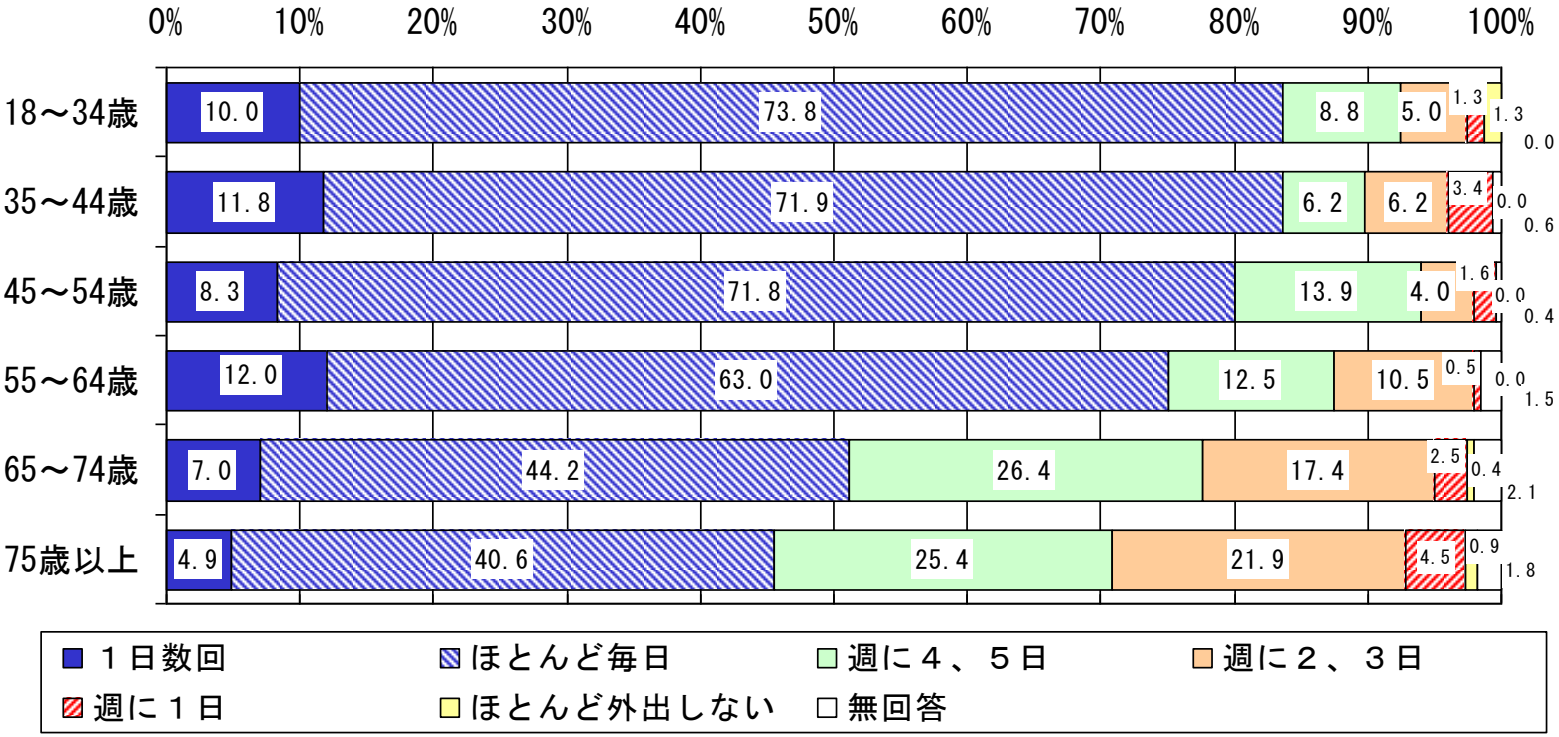


ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

外出頻度

・年齢による違いが大きく、65歳以上では週に２～３日以下の人が２割以上みられる。

図表４－２－２　　外出頻度（年齢別）

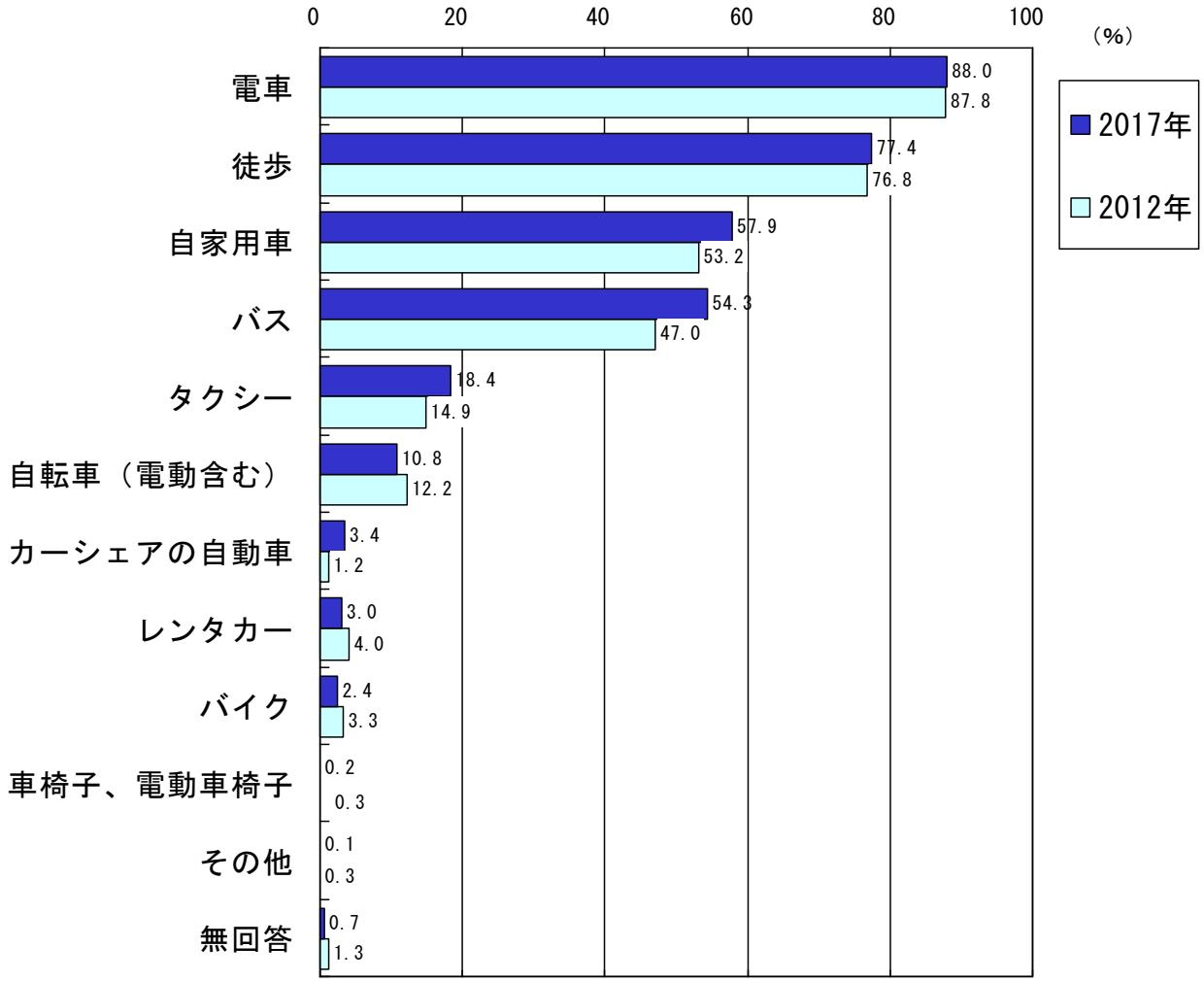


ベース人数：18～34歳80人、35～44歳178人、45～54歳252人、 55～64歳200人、65～74歳242人、75歳以上224人

３）移動手段

・移動手段は、電車が約９割、ついで徒歩が約８割、自家用車・バスも半数以上。

図表４－３　移動手段（Q31）（複数回答）

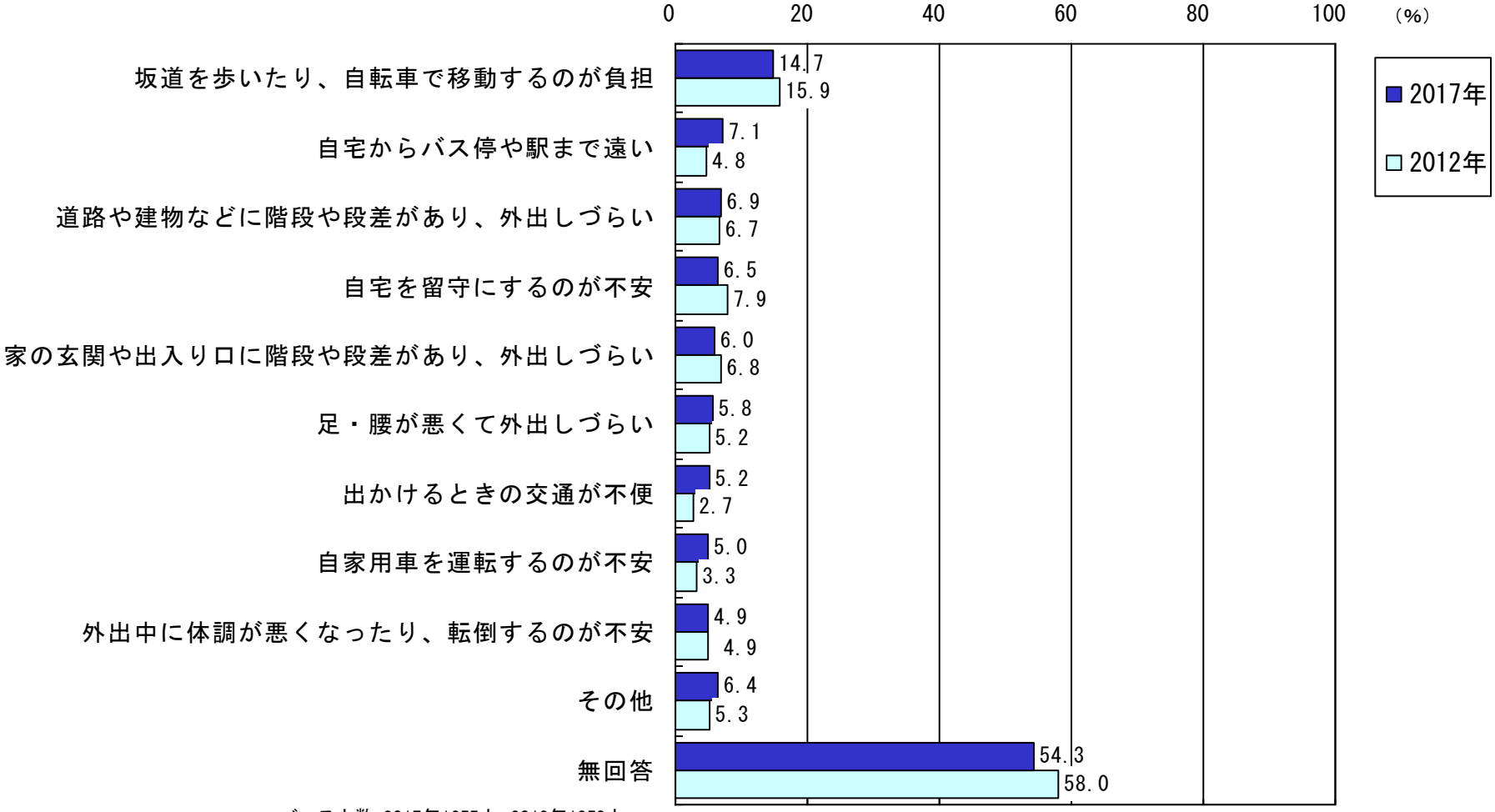


ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

４）外出時の不安・不便さ

・「坂道を歩いたり、自転車での移動が負担」が15%で、前回と同じく最多。それ以外の項目については１割未満であるものの、 「自宅からバス停や駅まで遠い」「道路や建物等に段差があり外出しづらい」等、外出・移動に対する不安・不便さを感じている人が少なくない。

図表４－４　外出時の不安・不便さ（Q32）（複数回答）

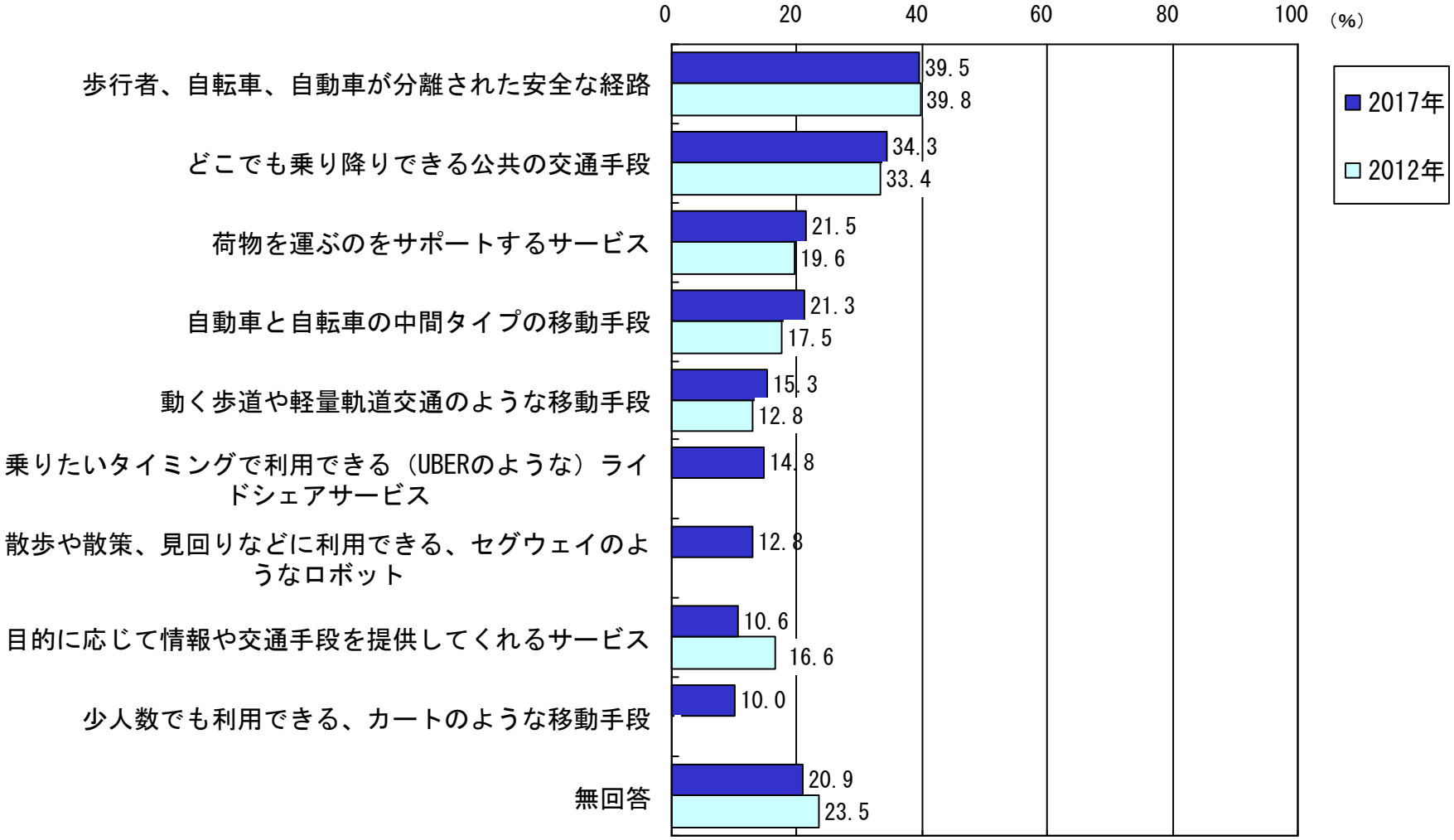


ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

５）移動（モビリティ）に対するニーズ

・「歩行者・自動車分離の安全な経路」「どこでも乗り降りできる公共交通手段」に対するニーズが３割以上で、前回同様に高め。

図表４－５　移動（モビリティ）に対するニーズ（Q33）（複数回答）

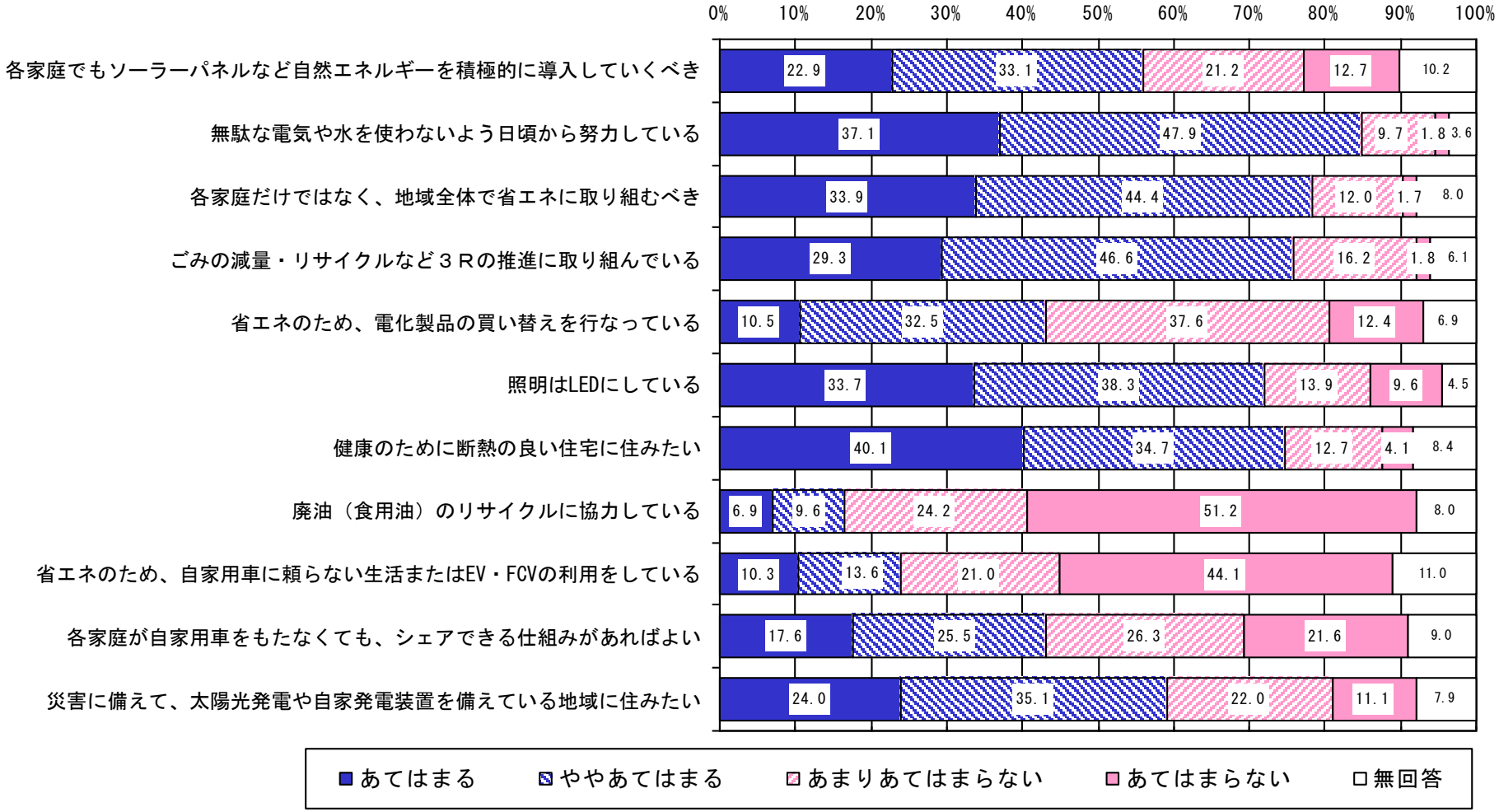


ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

６）環境・エネルギーに対する意識

・「無駄な電気や水を使わない努力をしている」「ごみの減量・リサイクルなどに取り組んでいる」など自分自身の努力や心がけを行なっている人が目立つほか、「地域全体で省エネに取り組むべき」といった考えの人も約８割。
・「廃油のリサイクル」「自家用車に頼らない生活」は、取り組んでいる人が少ない。

図表４－６－１　　環境・エネルギーに対する意識（Ｑ34）

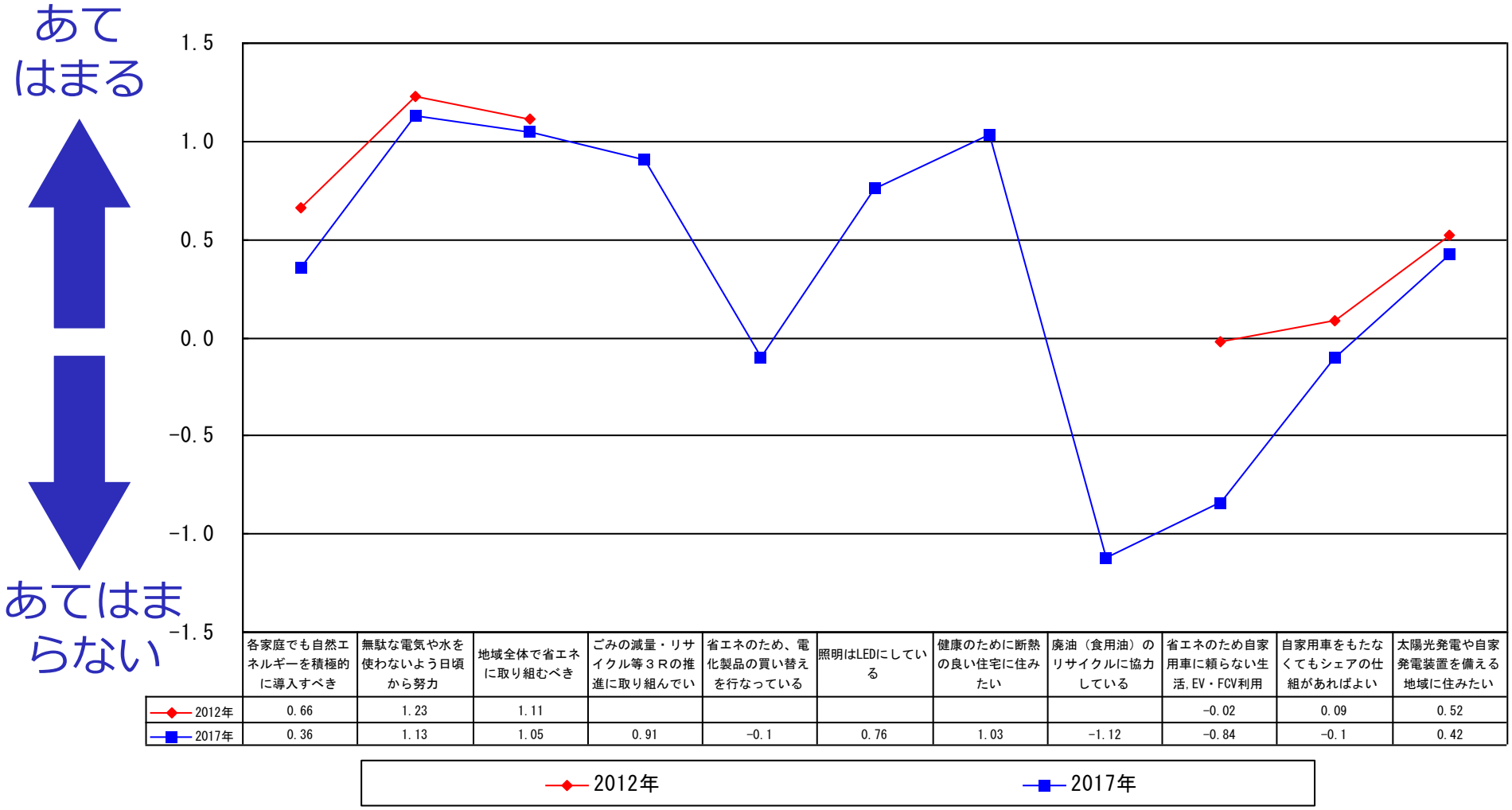


ベース人数：1255人

環境・エネルギーに対する意識

・前回と比べて、環境・エネルギーに対する意識のスコアがやや低下している。

図表４－６－２　　環境・エネルギーに対する意識（時系列）



	各家庭でも自然エネルギーを積極的に導入すべき	無駄な電気や水を使わないよう日頃から努力	地域全体で省エネに取り組むべき	ごみの減量・リサイクル等３Ｒの推進に取り組んでい	省エネのため、電化製品の買い替えを行なっている	照明はLEDにしている	健康のために断熱の良い住宅に住みたい	廃油（食用油）のリサイクルに協力している	省エネのため自家用車に頼らない生活,EV・FCV利用	自家用車をもたなくてもシェアの仕組があればよい	太陽光発電や自家発電装置を備える地域に住みたい
2012年	0.66	1.23	1.11						-0.02	0.09	0.52
2017年	0.36	1.13	1.05	0.91	-0.1	0.76	1.03	-1.12	-0.84	-0.1	0.42

注：数値は加重平均　あてはまる＝２、ややあてはまる＝１、あまりあてはまらない＝-１、あてはまらない＝-２

注：2012年と2017年では質問項目が異なる。

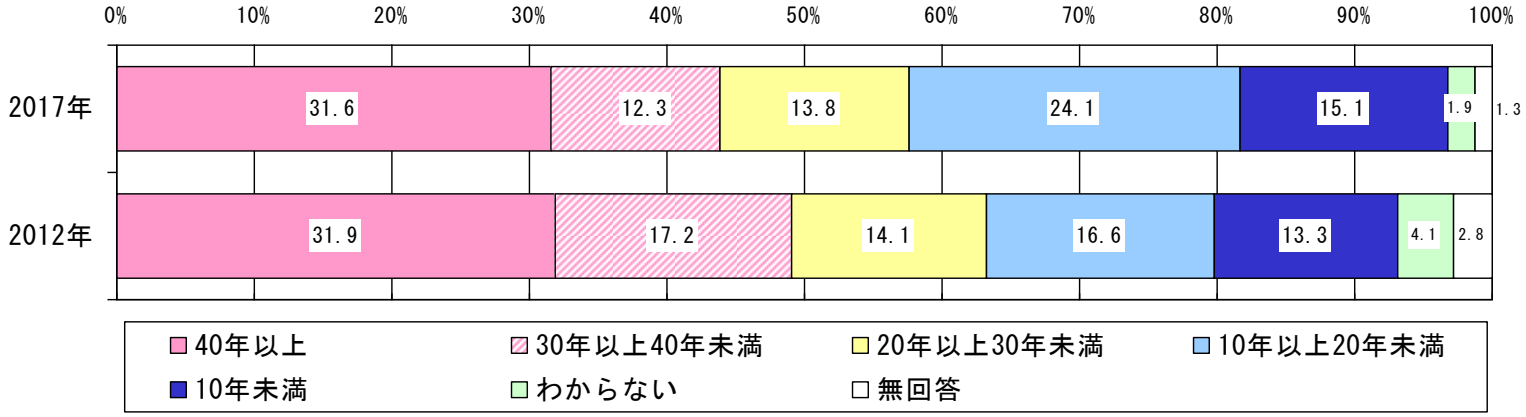
５．住まいに関する実態とニーズ

・住まいの選択理由、エリアによって異なるが、全体では「街並の良さ」を挙げる人が半数以上。
・住まいに対する満足は９割以上、１～３丁目とも満足度が向上。

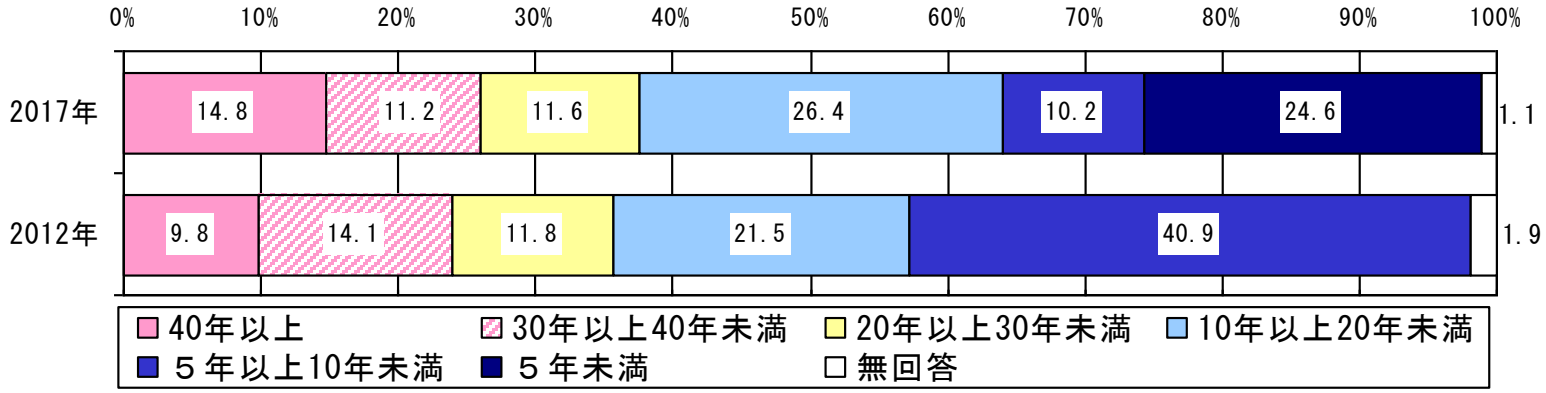
１）築年数・居住年数

・住居の築年数は40年以上が32%と最も多く、30年以上40年未満12%。30年以上たっている建物に住んでいる回答者は前回よりも割合が低いものの４割以上。10年以上20年未満も24%と割合が高め。居住年数では10年未満が35%を占める（前回41%）。

図表５－１－１　住居の築年数（Q36）



図表５－１－２　居住年数（Q37）



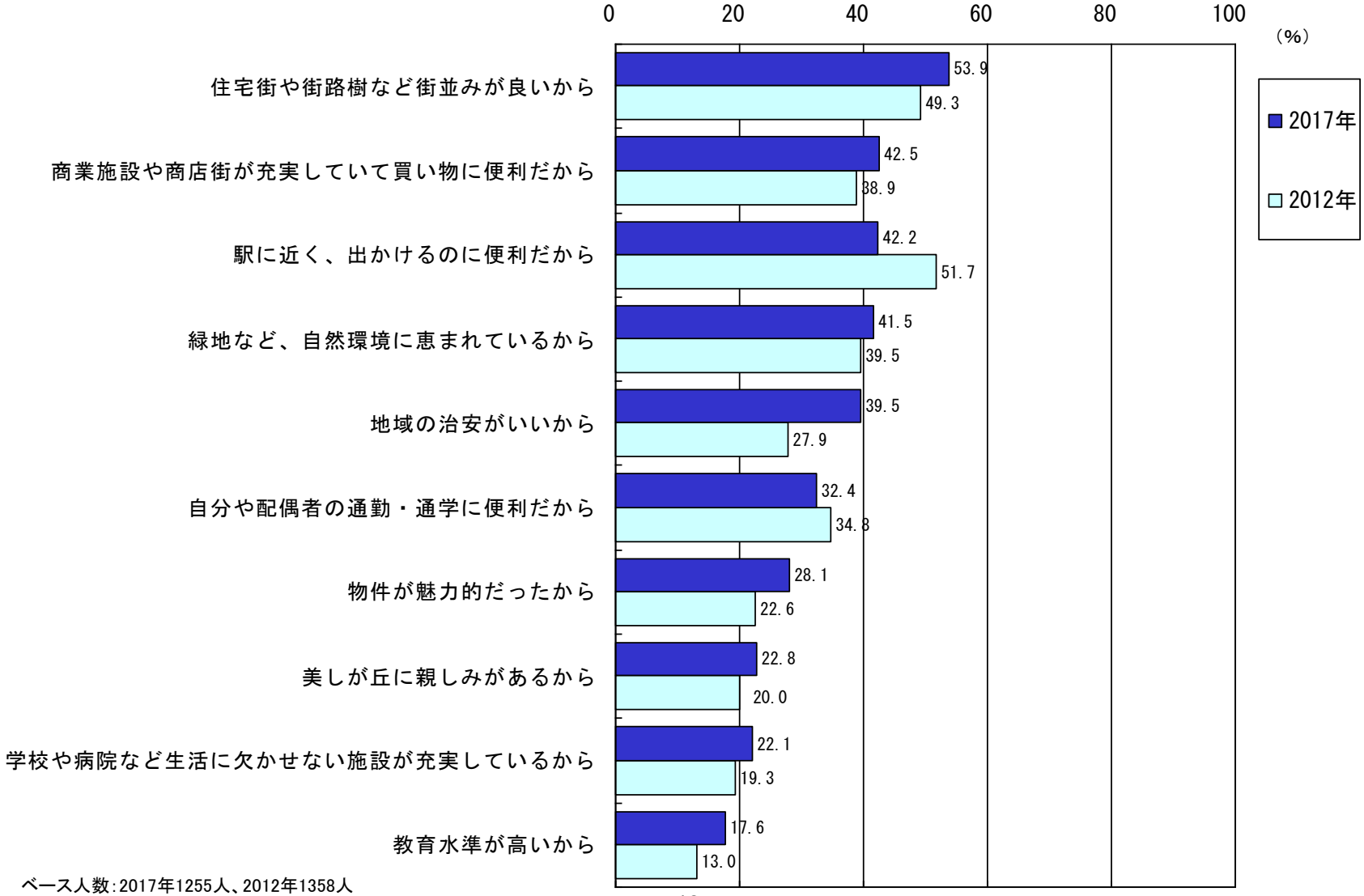
注：2012年は10年未満計

ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

２）住まいの選択理由

・住まいの選択理由は、前回とやや傾向が異なり「街並みが良い」が最も多く半数以上、ついで「商業施設の充実」　「駅に近く出かけるのに便利」「自然環境」「地域の治安」が4割前後で続く。

図表５－２　住まいの選択理由（Ｑ38）:上位項目　（複数回答）

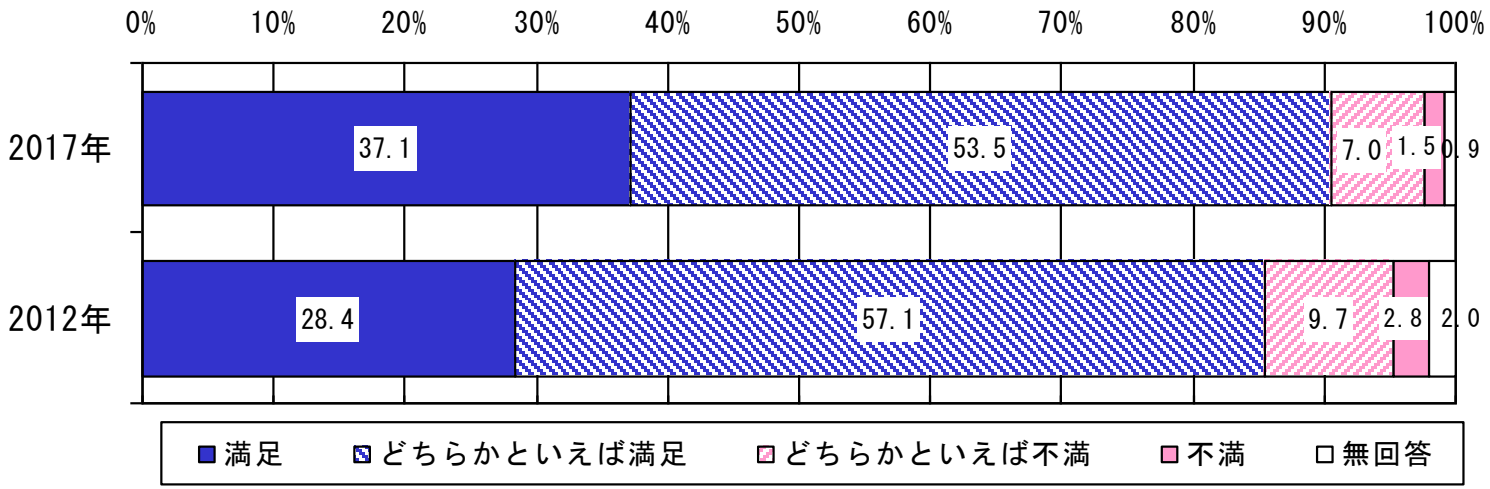


ベース人数:2017年1255人、2012年1358人

３）住まいに対する満足度

・住まいに対する満足度は、「満足」の割合が37%、「どちらかといえば満足」54%で、91%の人は満足しており、前回調査よりも大きくアップ。

図表５－３－１　住まいに対する満足度（Q39）



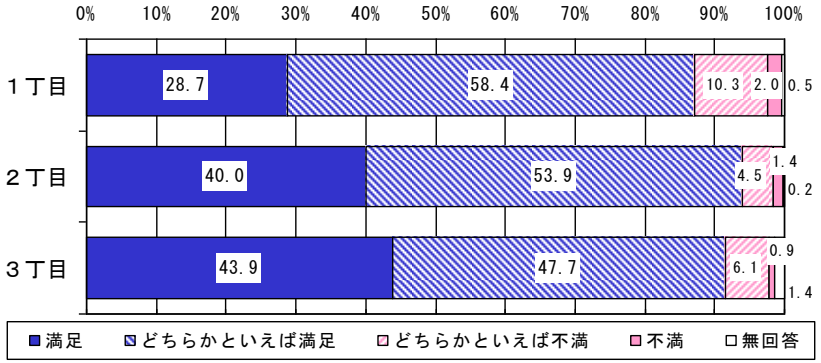
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

住まいに対する満足度（エリア別）

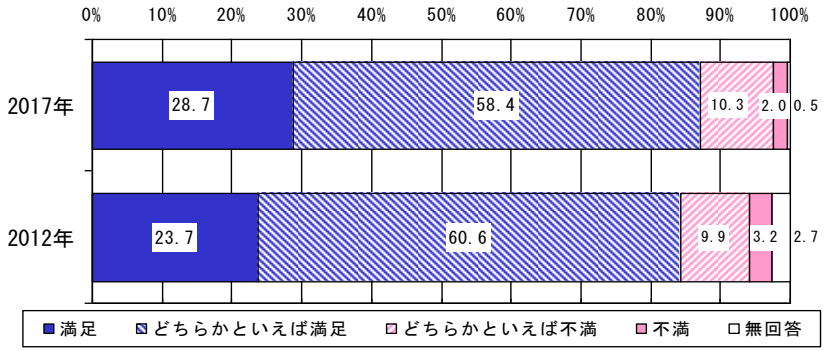
・住まいの満足度は、３丁目、２丁目、１丁目の順に高いが、各エリアとも前回に比べて向上。

図表５－３－２　住まいに対する満足度（エリア別）

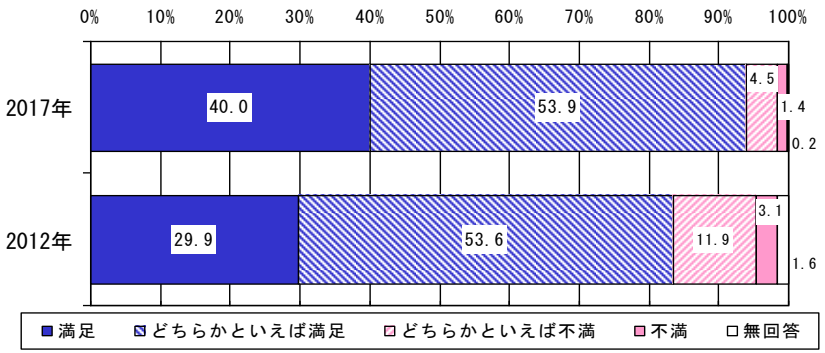
（2017年）



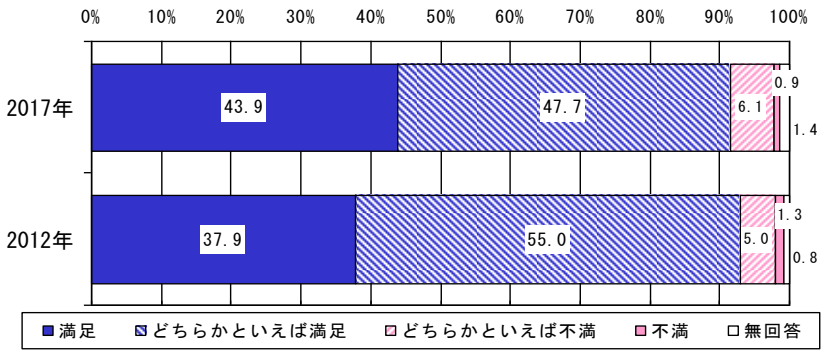
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）

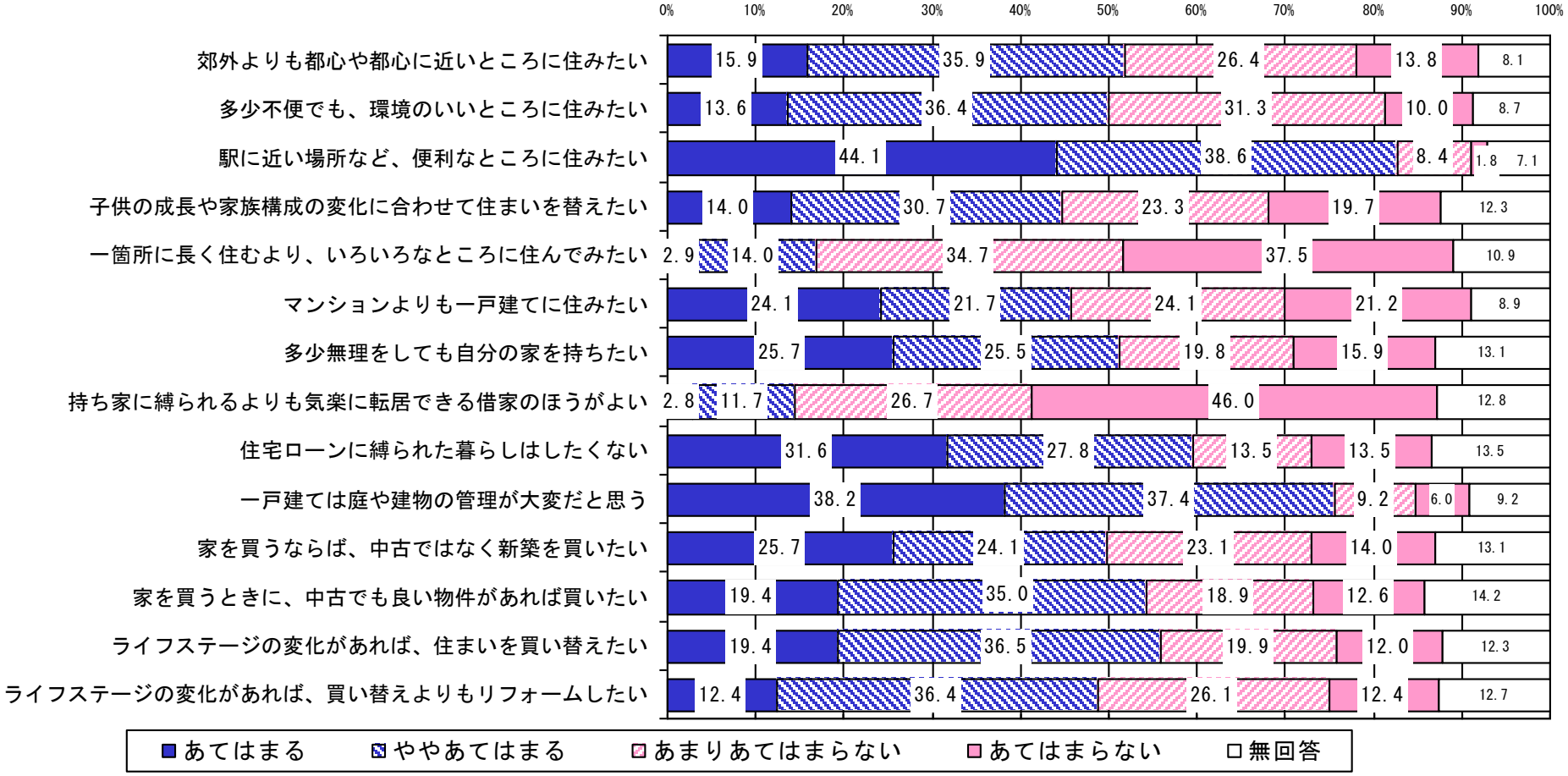


ベース人数：2017年１丁目397人、２丁目488人、３丁目346人、 2012年１丁目629人、２丁目489人、３丁目240人

４）住まいに対する意識

・「駅に近い場所など便利な場所に住みたい」にあてはまる人が８割超。「一戸建ては庭や建物の管理が大変と思う」人が７割以上にのぼる。
・「郊外よりも都心や都心の近くに住みたい」「多少不便でも環境のいいところに住みたい」「多少無理をしても自分の家を持ちたい」は、意見がわかれる。
・ライフステージの変化では、リフォームするよりも買い替えの方がニーズが高い。

図表５－４－１　住まいに対する態度・考え（Q40）

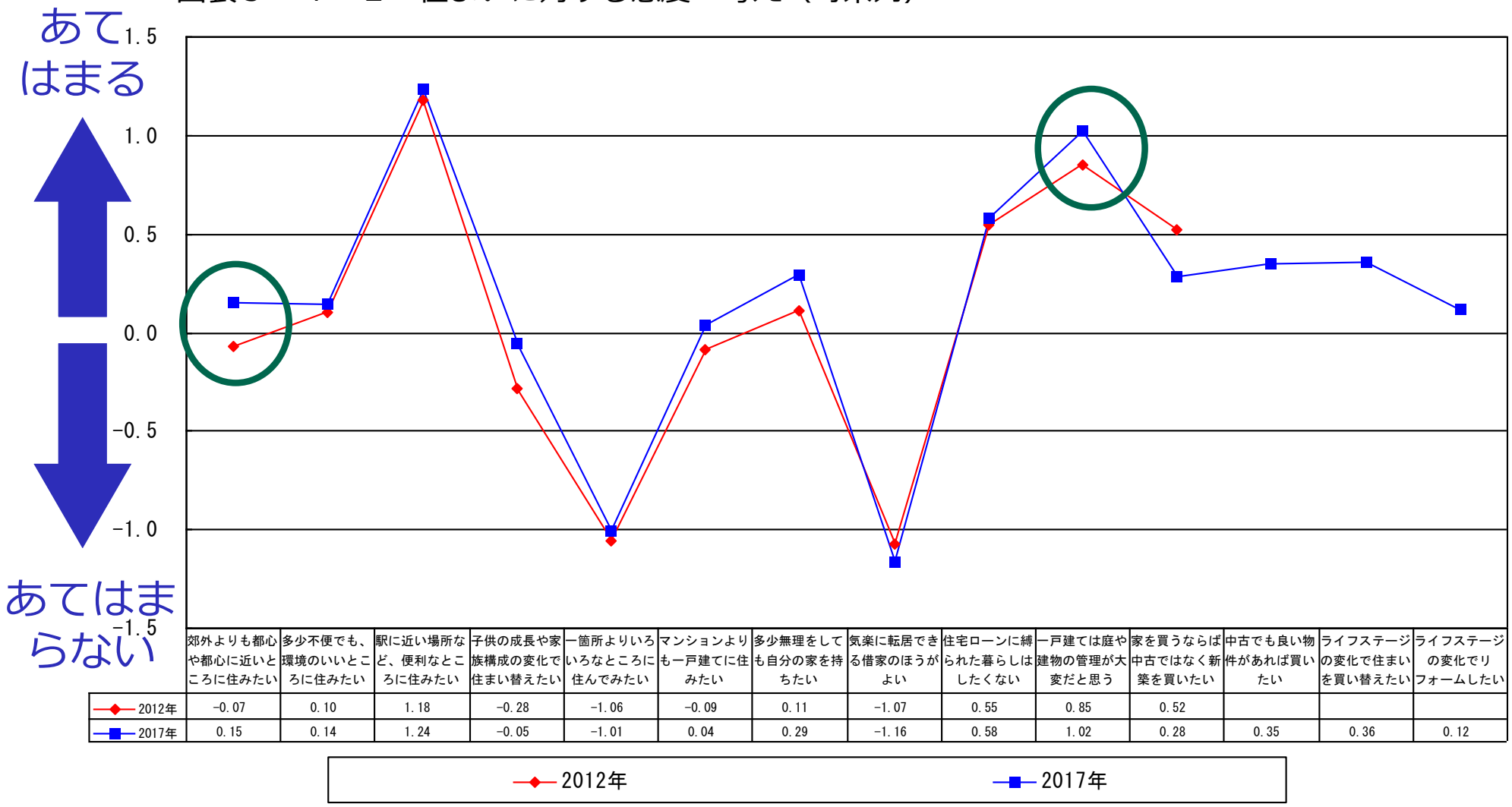


ベース人数：1255人

住まいに対する意識

・前回に比べて、「郊外よりも都心や都心に近いところに住みたい」「一戸建ては庭や建物の管理が大変だと思う」が増加。

図表５－４－２　住まいに対する態度・考え（時系列）



	郊外よりも都心や都心に近いところに住みたい	多少不便でも、環境のいいところに住みたい	駅に近い場所など、便利なところに住みたい	子供の成長や家族構成の変化で住まい替えたい	一箇所よりいろいろなところに住んでみたい	マンションよりも一戸建てに住みたい	多少無理をしても自分の家を持ちたい	気楽に転居できる借家のほうがよい	住宅ローンに縛られた暮らしはしたくない	一戸建ては庭や建物の管理が大変だと思う	家を買うならば中古ではなく新築を買いたい	中古でも良い物件があれば買いたい	ライフステージの変化で住まいを買い替えたい	ライフステージの変化でリフォームしたい
2012年	-0.07	0.10	1.18	-0.28	-1.06	-0.09	0.11	-1.07	0.55	0.85	0.52			
2017年	0.15	0.14	1.24	-0.05	-1.01	0.04	0.29	-1.16	0.58	1.02	0.28	0.35	0.36	0.12

注：数値は加重平均　あてはまる＝２、ややあてはまる＝１、あまりあてはまらない＝-１、あてはまらない＝-２

注：2012年と2017年では質問項目が異なる。

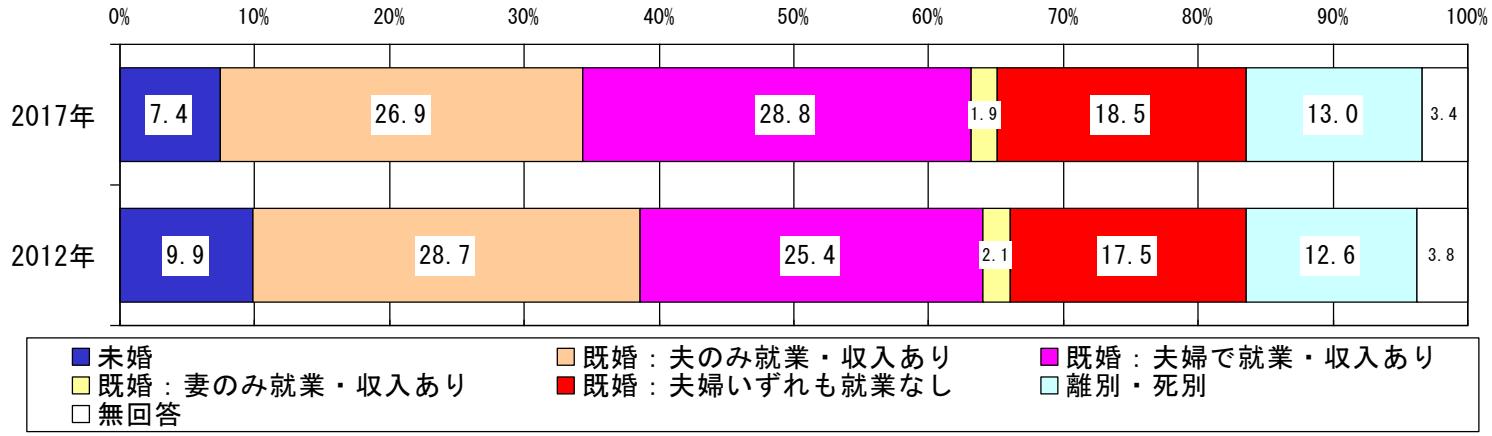
６．家族・世帯の状況

・夫婦で就業（共働き）が約３割で、前回に比べてやや増加。
・現在の暮らし向き、「ゆとりがある」割合が、エリアを問わず前回よりも高い。

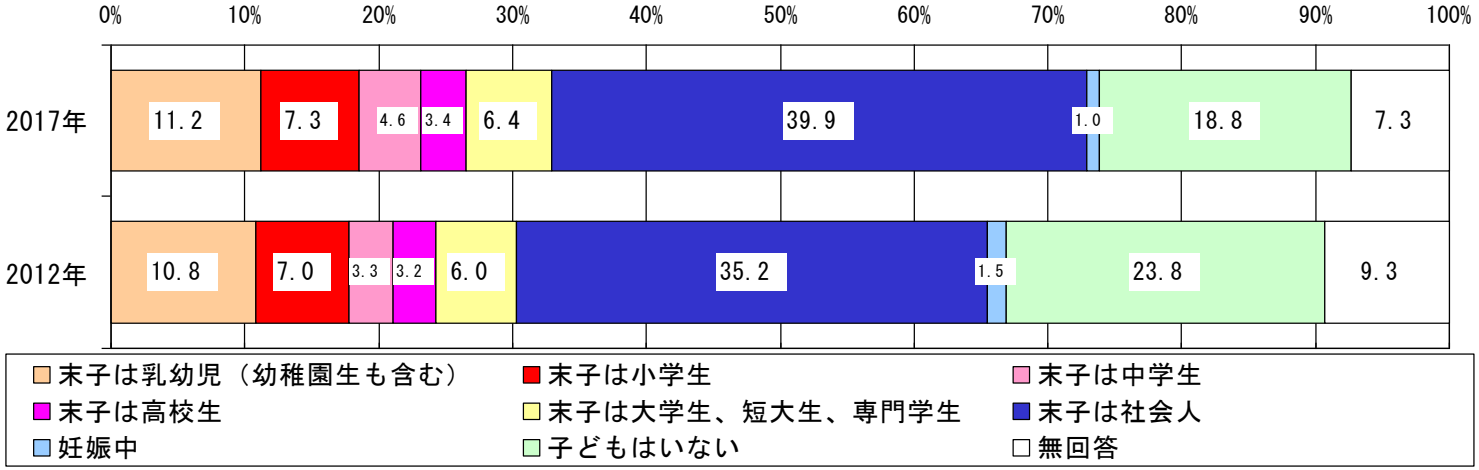
１）未既婚・夫婦の就業状況・ライフステージ

・既婚76%で前回よりやや高め。夫のみ就業27%、夫婦で就業が29%で共働きの割合がやや増加。ライフステージは末子がすでに社会人に成長している人が４割を占める。

図表６－１－１　未既婚・夫婦の就業状況（Q49）



図表６－１－２　ライフステージ（未婚含む）（Q50）

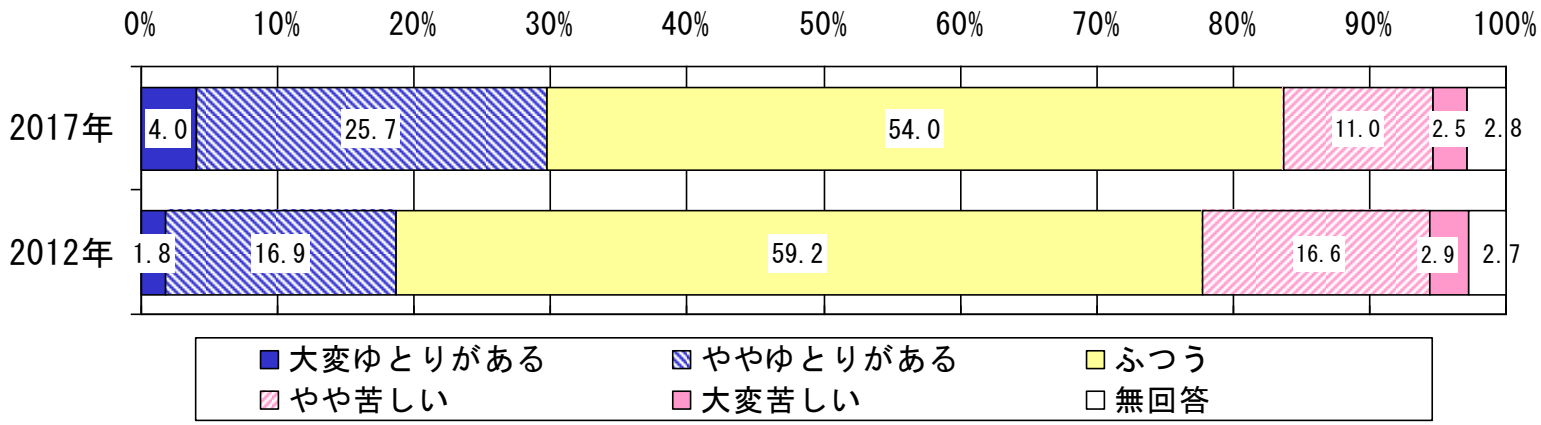


ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

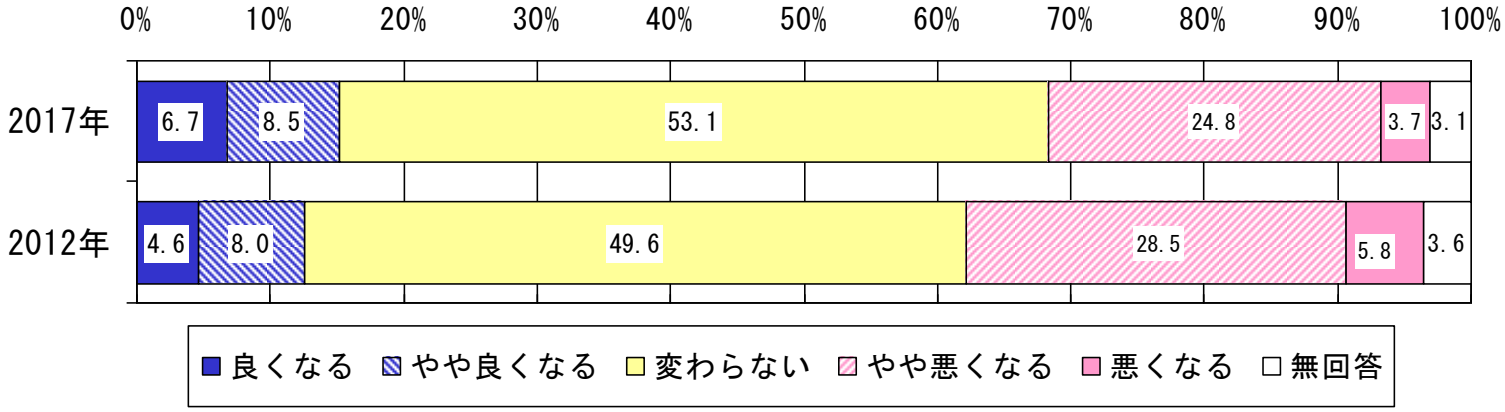
２）暮らし向き意識

・現在の暮らし向き意識は、前回に比べて「ゆとりがある」が割合が高い（約３割）。
・将来の暮らし向きについても前回より「良くなる」割合がやや高く（３ポイント増）、「悪くなる」割合が低い（６ポイント減）。

図表６－２－１　現在の暮らし向き意識（Q57）



図表６－２－２　将来の暮らし向き意識（Q58）



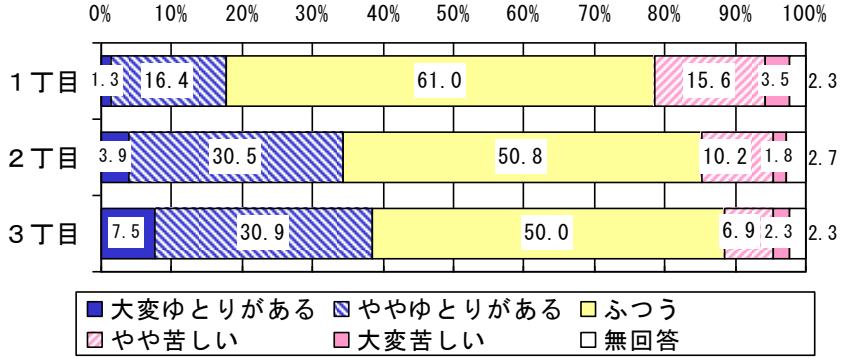
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

暮らし向き意識：現在（エリア別）

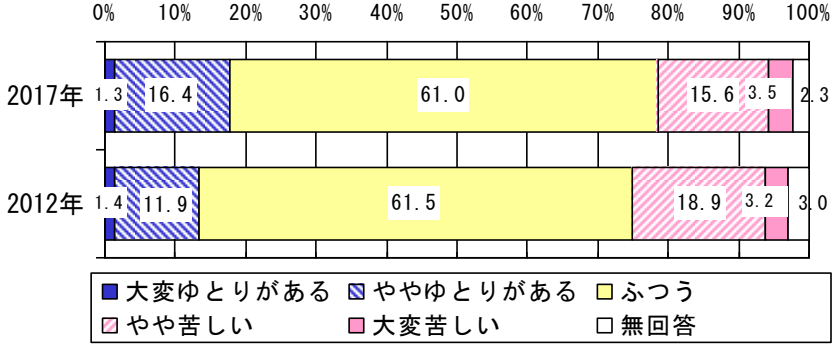
・エリア別では、３丁目で「ゆとりがある」割合が高いが、各エリアとも「ゆとりがある」割合が前回に比べて高まっている。

図表６－２－３　現在の暮らし向き意識（エリア別）

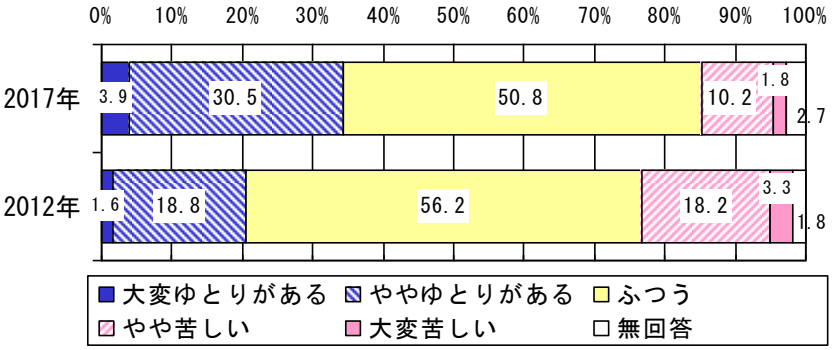
（2017年）



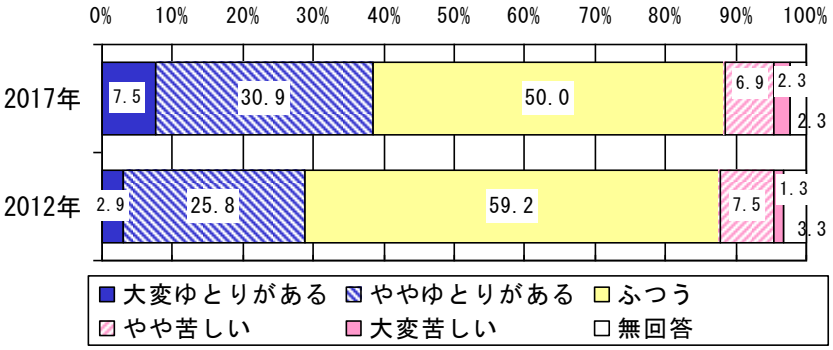
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）



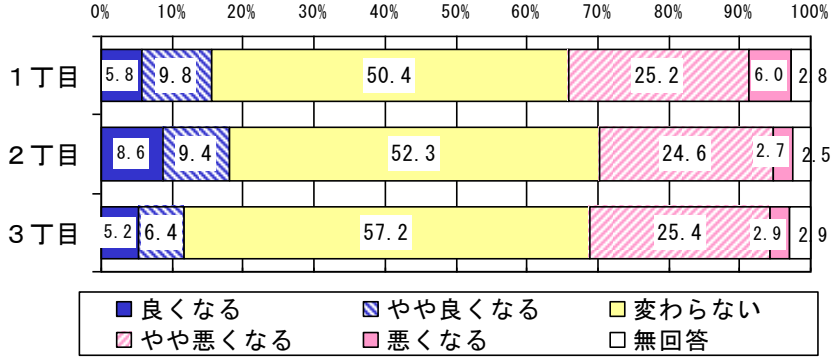
ベース人数：2017年1255人、2012年1358人

暮らし向き意識：将来（エリア別）

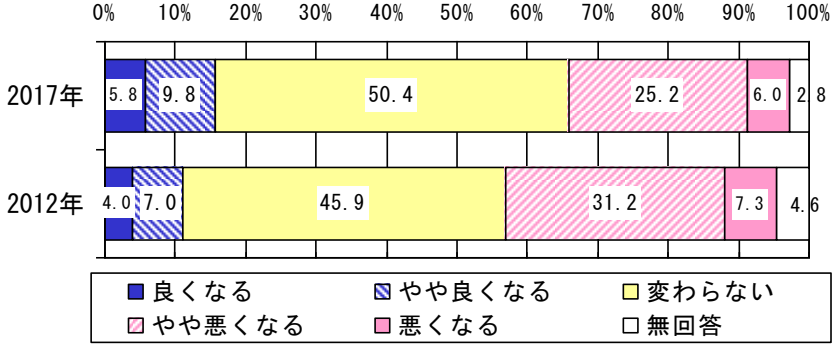
・将来の暮らし向きについては、２丁目で「良くなる」割合が高いが、各エリアとも「良くなる」割合が前回に比べて高まっている。

図表６－２－４　将来の暮らし向き意識（エリア別）

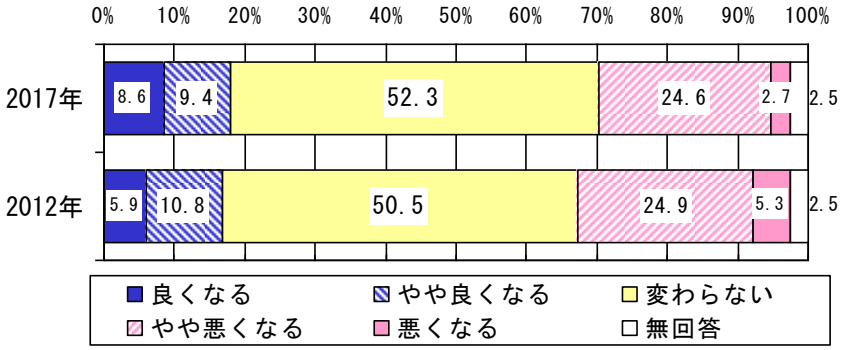
（2017年）



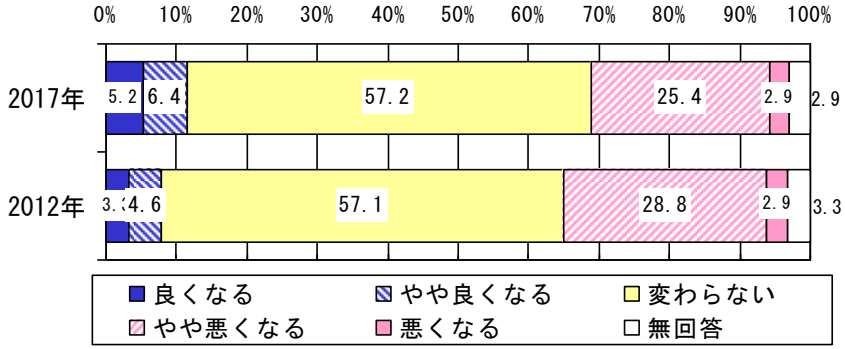
（1丁目）



（2丁目）



（３丁目）



ベース人数：2017年1255人、2012年1358人